

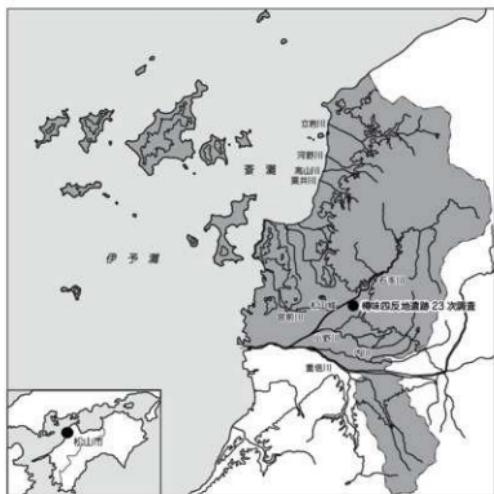
# 樽味四反地遺跡

23次調査

2017

松山市教育委員会  
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
埋蔵文化財センター

た る み し た ん じ  
**樽味四反地遺跡**  
23次調査



2017

松山市教育委員会  
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
埋蔵文化財センター



## 序　　言

本書は、平成23年度に警察官舎建設に伴い実施した榎味四反地遺跡23次調査の発掘調査報告書です。

本遺跡が所在する桑原地区は、市内で最も遺跡が密集している地区の一つです。とくに榎味四反地遺跡は、西日本有数の規模を誇る弥生時代後期末から古墳時代初頭の首長層の居館跡と考えられる大型建物跡が3棟も発見されたことから、全国的にも大変注目されています。

今回の調査では、主に弥生時代から古代までの集落の遺構や関連遺物を確認することが出来ました。特に古墳時代の竪穴建物では、市内で初めてとなる須恵器の小型壺と外側にコンバス文を持つ石製の紡錘車が出土し、桑原地区における弥生時代から古墳時代の集落構造や変遷を考える上で貴重な資料を得ることが出来ました。

このような成果を上げることが出来ましたのは、関係各位の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

最後になりましたが、本書が文化財保護意識の向上と埋蔵文化財調査研究の一助となり、松山市民の皆様をはじめ多くの方々に末永く、ご活用いただければ幸いに存じます。

平成29年3月

松山市教育長　藤田　仁

## 例　　言

1. 本書は、財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センターが平成23年5月6日から同年7月29日まで屋外調査を実施した、松山市樟味四丁目225番1、225番2、226番1、226番4の各一部における松山東警察署職員住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 整理作業と報告書作成作業は、公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センターが行った。
3. 遺構の略号は、堅穴建物：SB、土坑：SK、溝：SD、柱穴：SP、性格不明遺構：SXとし、番号を付記した。
4. 本書で使用した標高数値は海拔標高を示し、方位は国土座標を基準とした真北である。
5. 基準点測量では、株式会社ウエスコ四国支社に業務委託した。
6. 遺構の測量は、高尾和長と高尾の指示のもと作業員が実施した。
7. 本書掲載の遺構図、遺物図は、スケール下に縮尺を表記した。
8. 本書報告の遺構埋土、土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖（1996）』に準拠した。
9. 遺物の実測及び掲載図の製図は、高尾の指示のもと田崎真理、多知川富美子、寺尾いづみ、矢野久子、木西嘉子が行った。
10. 写真図版は、遺構と遺物撮影は大西朋子が担当し、図版作成は高尾と協議のうえ大西が行った。
11. 本書に関する資料は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。
12. 本書の執筆は、高尾が行った。
13. 報告書抄録は、卷末に掲載している。

# 本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯	
1. 調査に至る経緯      2. 調査の経緯	
第2節 調査・刊行組織	
1. 調査組織      2. 刊行組織	
第3節 立地と環境	
1. 地理的環境      2. 歴史的環境	
第2章 調査の成果.....	7
第1節 層位	
第2節 遺構と遺物	
1. 弥生時代      2. 古墳時代      3. 古代      4. その他の遺物	
第3章 まとめ.....	52

## 挿図目次

### 第1章 はじめに

第1図 調査地周辺の遺跡分布図 ..... 6

### 第2章 調査の成果

第2図 調査地位置図 ..... 7

第3図 区割り図 ..... 8

第4図 I区、III区遺構配置図・I区北壁土層図 ..... 9

第5図 SB102測量図・遺物出土状況図 ..... 11

第6図 SB102出土遺物実測図(1) ..... 12

第7図 SB102出土遺物実測図(2) ..... 13

第8図 SB102出土遺物実測図(3) ..... 15

第9図 SB102出土遺物実測図(4) ..... 16

第10図 SB102出土遺物実測図(5) ..... 17

第11図 SB102出土遺物実測図(6) ..... 18

第12図 SB102出土遺物実測図(7) ..... 19

第13図 SB102出土遺物実測図(8) ..... 20

第14図 SB102出土遺物実測図(9) ..... 21

第15図 SB102出土遺物実測図(10) ..... 22

第16図 SB102出土遺物実測図(11) ..... 23

第17図 SB102出土遺物実測図(12) ..... 24

第18図 SB102出土遺物実測図(13) ..... 25

第19図 SB102出土遺物実測図(14) ..... 26

第20図 SB103測量図・遺物出土状況図 ..... 27

第21図 SB103出土遺物実測図(1) ..... 28

第22図 SB103出土遺物実測図(2) ..... 29

第23図 II区遺構配置図・SB201測量図・遺物出土状況図 ..... 30

第24図 SB201出土遺物実測図 ..... 31

第25図 SB101測量図・遺物出土状況図 ..... 32

第26図 SB101出土遺物実測図(1) ..... 33

第27図 SB101出土遺物実測図(2) ..... 34

第28図 SD102測量図 ..... 36

第29図 SD102下層出土遺物実測図 ..... 37

第30図 SD102上層出土遺物実測図(1) ..... 38

第31図 SD102上層出土遺物実測図(2) ..... 39

第32図 SD102層位不明出土遺物実測図(1) ..... 39

第33図 SD102層位不明出土遺物実測図(2) ..... 40

第34図 SK101測量図・出土遺物実測図 ..... 41

第35図 SK102測量図	42
第36図 SK103測量図	42
第37図 SK104測量図・出土遺物実測図	43
第38図 SK105測量図・出土遺物実測図	44
第39図 SK106測量図・出土遺物実測図	45
第40図 SX101測量図・出土遺物実測図	46
第41図 SD101測量図	47
第42図 SD101出土遺物実測図	48
第43図 SP出土遺物実測図	49
第44図 包含層出土遺物実測図	50
第45図 出土地点不明遺物実測図	51

## 表目次

表1 竪穴建物一覧	53
表2 土坑一覧	
表3 溝一覧	
表4 柱穴一覧	54
表5 性格不明遺構一覧	
表6 SB102出土遺物観察表（土製品）	55
表7 SB102出土遺物観察表（石製品）	61
表8 SB102出土遺物観察表（金属製品）	62
表9 SB103出土遺物観察表（土製品）	
表10 SB103出土遺物観察表（石製品）	63
表11 SB201出土遺物観察表（土製品）	
表12 SB101出土遺物観察表（土製品）	
表13 SB101出土遺物観察表（石製品）	64
表14 SD102下層出土遺物観察表（土製品）	
表15 SD102下層出土遺物観察表（石製品）	65
表16 SD102上層出土遺物観察表（土製品）	
表17 SD102層位不明出土遺物観察表（土製品）	66
表18 SD102層位不明出土遺物観察表（石製品）	67
表19 SK101出土遺物観察表（土製品）	
表20 SK104出土遺物観察表（土製品）	
表21 SK105出土遺物観察表（土製品）	
表22 SK106出土遺物観察表（土製品）	
表23 SK106出土遺物観察表（装身具）	
表24 SX101出土遺物観察表（土製品）	

表 25 SD101 出土遺物観察表（土製品）	
表 26 SD101 出土遺物観察表（装身具）	68
表 27 SD101 出土遺物観察表（石製品）	
表 28 SP 出土遺物観察表（土製品）	
表 29 SP120 出土遺物観察表（石製品）	69
表 30 包含層出土遺物観察表（土製品）	
表 31 包含層出土遺物観察表（装身具）	
表 32 出土地点不明遺物観察表（土製品）	70

## 写真図版目次

- 図版 1 1. I区第2面遺構検出状況①（南西より）  
2. I区第2面遺構検出状況②（西より）
- 図版 2 1. SB101 遺物出土状況（北西より）  
2. SB101 土師器甕出土状況（北西より）  
3. SB101 小型壺出土状況（北より）
- 図版 3 1. SB101 紡錘車出土状況①（東より）  
2. SB101 紡錘車出土状況②（東より）  
3. SB101 打ち欠かれた高环出土状況（南西より）
- 図版 4 1. SB101 完掘状況（西より）  
2. SB102 遺物出土状況（西より）  
3. SB102 炉内遺物出土状況（東より）
- 図版 5 1. SB102 完掘状況①（西より）  
2. SB102 完掘状況②（北西より）  
3. SB103 検出状況（南東より）
- 図版 6 1. SB103 完掘状況、遺物出土状況（南東より）  
2. SB103 台石出土状況（南より）  
3. SD102 遺物出土状況①（北西より）
- 図版 7 1. SD102 遺物出土状況②（東より）  
2. I区完掘状況（西より）  
3. SB201 遺物出土状況（東より）
- 図版 8 1. 出土遺物（SB102 出土遺物①）
- 図版 9 1. 出土遺物（SB102 出土遺物②）
- 図版 10 1. 出土遺物（SB102 出土遺物③）
- 図版 11 1. 出土遺物（SB103 出土遺物）
- 図版 12 1. 出土遺物（SB201 : 177, SB101 : 180・183・184・191）
- 図版 13 1. 出土遺物（SD102 : 194 ~ 196・212・214・215, SK105 : 240, SD101 : 252・253, 包含層 : 271）

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯（第1～3図）

### 1. 調査に至る経緯

2011（平成23）年2月、警察共済組合愛媛県支部、支部長岸本吉生氏より、松山市樽味四丁目225番1、225番2、226番1、226番4における松山東警察署職員住宅の建設にあたり、当該地の埋蔵文化財の確認申し込みが、松山市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に提出された。

申請地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「№81 樽味遺跡」内にあり周知の遺跡として知られ、松山平野中央部を西流する石手川中流域南岸の樽味地区に位置する。樽味地区では、これまでに埋蔵文化財発掘調査が48ヶ所で行われている。調査からは縄文時代から中世までの竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝などの集落に関連する遺構や多数の遺物が出土している。

特に、樽味四反地遺跡6次・8次・13次調査からは、床面積100m<sup>2</sup>を超える大型建物3棟が検出され、古墳時代初頭の首長層に関わる建物群が存在したことが全国的に話題となり、松山平野内でも有数の遺跡地帯として知られている。

申請地は平成15年11月14日に愛媛県教育委員会文化財保護課によって試掘調査が行われ、弥生時代後期から古代の遺構と遺物が多数検出されている。

これらのことより、文化財課、財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）と警察共済組合愛媛県支部の三者は遺跡の取り扱いについて協議を行い、開発工事によって消失する遺跡に対して、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、文化財課の指導のもと、埋文センターが主体となり、2011（平成23）年5月6日より本格調査を実施した。

### 2. 調査の経緯

発掘調査（屋外調査）は、2011（平成23）年5月6日～同年7月29日の間実施した。調査区は3区に分け、北側をI区、西側をII区、南側をIII区とした。

発掘調査初日には、ユニットハウス、仮設テント、仮設トイレを設置し、発掘機材の搬入を行った。調査区を設定し線引きを行い、重機を使用して掘削をI区から行った。掘削は試掘調査結果から遺構面がV層黒褐色土（7.5YR 3/1）上面とVI層褐色土（10YR 4/1）上面の2面が確認されており、はじめに第1面の地表下100cmまで掘り下げ、黒褐色土上面で調査を行い溝を検出した。その後、黒褐色土を掘り下げ、第2面の遺構検出を行った。I区からは竪穴建物、溝、土坑、柱穴を検出した。調査区南側と西側は建物解体時に破壊され、北側も部分的に排水管と排水沟に破壊されていたため、調査が行えたのは北側部分だけであり調査地の約半分の面積の調査となった。II区からは竪穴建物を検出した。II区もI区同様に南側と西側は建物解体時に破壊されており、一部の調査となった。III区は地表下150cmまで掘削を行ったが、調査区全面が建物解体時に破壊されており、遺構・遺物は検出されなかった。

5月19日には、業者に委託し調査区内に基準点を設置し、座標系に伴う調査区割りを設定した。その後、平板を用いて縮尺100分の1による遺構配置図を作成した。遺構埋土と遺構番号を記録した後に、個別の

遺構調査を開始した。遺構精査は工程上、溝を優先的に行うこととした。順次、竪穴建物、土坑、柱穴の精査を行い、遺構全体が明確になった6月2日に高所作業車を使用し、写真撮影を行った。遺構の掘削は溝、竪穴建物、土坑の順に行った。記録は、測量図と写真を用いた。遺構掘削と測量が終わりに近づいた7月21日には、報道記者に対する説明会を開いた。7月22日には高所作業車を使用し、完掘状況の写真撮影を行った。7月23日土曜日の午後から地域住民に対する現地説明会を開催し、炎天下の中約50人の参加者があった。7月25日から測量補足、発掘機材の撤去、土器洗浄、注記を行う。7月26日から重機を使用して埋め戻しを行い、7月29日にはユニットハウス、仮設テント、仮設トイレを搬出し屋外調査を終了する。

## 第2節 調査・刊行組織

### 1. 調査組織〔平成23年度〕

松山市教育委員会		財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	
事務局	教 育 長 局 長	山内 泰 鶴 啓吾	理 事 長 局 長
	企 画 官 企 画 官	青木 茂 渡部 満重	事 務 局 次 長 施設利用推進部長
文化財課	課 長	駒澤 正憲	埋蔵文化財センター 考古館館長兼所長
	主 幹	森 正経	調査・研究リーダー
	主 査	竹内 明男	主 任
			一色 哲昭 松澤 史夫 近藤 正 中越 敏彰 田城 武志 栗田 茂敏 高尾 和長
			(調査担当) 大西 朋子 (写真担当)

### 2. 刊行組織〔平成28年度〕

松山市教育委員会		公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	
事務局	教 育 長	山本 昭弘 (前任～10/1)	理 事 長
	局 長	藤田 仁 (10/2～)	局 長
	次 長	前田 昌一	次長兼総務部長
文化財課	課 長	家串 正治	埋蔵文化財センター 考古館館長兼所長
	主 幹	杉本 威	(調査・研究) 主査
	主 査	若江 俊二	(普及・啓発) 主査
		越智 茂樹	主 任
			(編集担当)

## 第3節 立地と環境（第1・2回）

### 1. 地理的環境

松山平野は高縄山系の南西面に位置し、東から南東部を四国山脈北東麓に限られ、西方の海岸線に向かって扇状に開けた沖積平野である。平野には、2大河川があり高縄山系に源を発し、北東から南西方向に流れる石手川と、四国山脈東三方が森に水源を持ち、西流する重信川がある。この2大河川は、それぞれいくつかの支流を集めながら西流し、伊予灘に注いでいる。平野は、これらの河川の沖積作用によって形成されている。樽味四反地遺跡は半径4kmの石手川扇状地左岸の扇央、標高39mに立地する。

### 2. 歴史的環境

ここでは、樽味地区と南西部に位置する東本遺跡で調査された、旧石器時代～中世までの遺構や遺物について紹介を行う。

#### （1）旧石器時代～縄文時代

遺跡は、現在までに確認されていない。遺物は樽味四反地遺跡6次調査、東本遺跡4次調査でナイフ形石器が出土している。このほか、東本遺跡4次調査で姶良丹沢火山灰（AT火山灰）の1次堆積層、樽味遺跡と樽味四反地遺跡では2次堆積層を確認している。

#### （2）縄文時代

東野森ノ木遺跡4次調査からは、晩期の土坑を検出している。樽味立添3次調査からは、晩期前半の長方形と隅丸方形の土坑3基を検出している。樽味四反地遺跡6次調査・16次調査・17次調査では、晩期の土器が出土している。東本遺跡4次調査ではアカホヤ火山灰の堆積が確認され、その下層から槍先形石器やスクレイパーなどの石器が出土しているほか、これらに近接して焼土塊や焼土面も検出している。

#### （3）弥生時代

前期前半は、樽味遺跡5次調査において堅穴建物が検出されている。前期後半では、樽味四反地遺跡7次調査において南北方向の溝が検出されている。前期末～中期初頭では樽味立添遺跡3次調査において大溝が2本検出されており、区画溝の可能性が指摘されている。中期前半では、森ノ木遺跡4次調査で土器棺墓を検出している。中期後半～後期初頭では樽味高木遺跡2次調査では小型の方形堅穴建物が検出され、樽味四反地遺跡17次調査では円形の堅穴建物を検出し、樽味四反地遺跡5次調査からは、長径9mを超える円形の堅穴建物を検出している。後期後葉から終末期にかけては東本遺跡4次調査では円形の大型建物を2棟検出し、SB203からは周堤帯、SB301からは青銅鏡片が出土している。樽味四反地遺跡20次調査では、壁高が検出面から85cmを測る堅穴建物が検出されている。このほか、樽味立添遺跡、樽味四反地遺跡、樽味高木遺跡、東本遺跡などで数多くの堅穴建物のはか、掘立柱建物も検出されている。

#### (4) 古墳時代

弥生時代後期末から古墳時代初頭には、総柱構造を持つ大型建物跡3棟が樽味四反地遺跡6次・8次・13次調査でそれぞれ検出され、首長階層の建物群と考えられている。中期以降は堅穴建物の検出例は増加し、樽味高木遺跡7～9次・11次・12次調査、樽味四反地遺跡7～9次・16次・18次調査などで方形や長方形の建物が検出されている。なかでも樽味高木遺跡7次調査のSB208は方形の堅穴建物で内部から製塙土器と、頸部外面に菱形のスタンプ文がある大壺が出土し、SB304からは、朝鮮半島系の軟質土器や算盤玉形紡錘車が出土している。樽味高木遺跡11次調査SB101からは、朝鮮半島系の軟質土器の長胴壺が底部から口縁部にかけて出土している。樽味四反地遺跡9次調査SB102は方形堅穴建物で北壁に竈を持ち、内部には仕切りの溝を持つ。出土遺物の土師器の高杯には一部を打ち欠いたものと、切り離されたものがある。須恵器には破碎した壺が出土した。そのほか、樽味四反地遺跡20次調査では堅穴建物より西日本有数の大きさを誇る鍛造鉄斧が出土している。このように、樽味地区は渡来人と渡来系文化との関わりが注目される遺構や遺物が多数出土している。後期においても樽味高木遺跡、樽味四反地遺跡、樽味立添遺跡から多くの堅穴建物や掘立柱建物が検出されている。

#### (5) 古代

東野森ノ木遺跡1次調査では土坑が検出され、基底面から土師器の塊が据えられた状態で出土している。樽味四反地遺跡1次・5次調査では、自然流路が検出されている。樽味四反地遺跡8次調査では、土坑が検出されている。樽味四反地遺跡14次調査では古墳時代から古代の溝が検出され、集落を区画するための溝の可能性が指摘されている。遺物では樽味四反地遺跡5次調査から、複数の円面硯が出土している。樽味四反地遺跡12次調査からは、包含層中より平安時代後期の土師器が出土している。

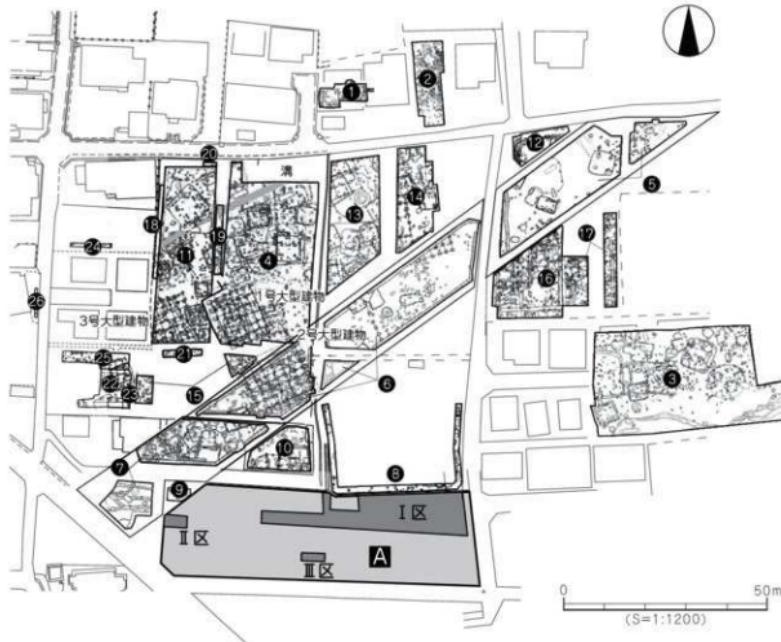
#### (6) 中世

東野森ノ木遺跡1次調査からは、掘立柱建物や溝を検出したほか、土坑内より白磁四耳壺が埋納状態で検出されている。桑原稻葉遺跡や東本遺跡6次調査では、土坑墓や柱穴を検出している。樽味高木遺跡9次調査では、土坑を検出している。樽味四反地遺跡8次調査では、土坑と素掘りの井戸を検出している。枝松遺跡6次調査では、溝1条と土坑4基を検出している。

#### 【文献】

- 宮本一夫 「樽味道跡」「糞子・樽味道跡」1989 爰媛大学埋蔵文化財調査室
- 梅木謙一ほか 「樽味四反地遺跡」「樽味立添遺跡」「樽味高木遺跡」「桑原地区的遺跡」1992 (財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 田崎博之 「樽味道跡 2次調査」「樽味道跡 II」1993 爰媛大学埋蔵文化財調査室
- 梅木謙一ほか 「樽味四反地遺跡 2・3・4次調査」「樽味高木遺跡 2次調査」「樽味高木遺跡 3次調査」「桑原地区的遺跡 II」1993 (財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 高尾和長 「樽味四反地遺跡 - 5次調査 -」2002 (財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 小玉亞紀子 「樽味四反地遺跡 - 6次調査 - 弥生時代～古墳時代」2003 (財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 高尾和長ほか 「東野森の木遺跡 1・2・3・4次調査 樽味立添遺跡 3次調査 樽味高木道路 7・8・9・11次調査 樽味四反地

- 道路 7・8・9・11 次調査 枝松道路 6 次調査】2007（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
相原秀仁はか 『柳味四反地道路 - 12・13 次調査-』2009（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
宮内慎一はか 『柳味四反地道路 - 14・16 次調査-』2009（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
宮内慎一はか 『柳味高木道路 - 12・13 次調査-』2009（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
橋本雄一はか 『柳味四反地道路 - 17・18 次調査-』2010（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
相原浩二 『東本道路 - 11・12 次調査-』2010（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
山之内志郎はか 『柳味四反地道路 15 次調査・柳味高木道路 14 次調査』2010（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
水本完二はか 『柳味立派道路 4 次調査・柳味高木 15 次調査』2011（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
小笠原善治はか 『柳味四反地道路- 19・20 次調査-』2011（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
相原浩二 『柳味高木道路 10 次調査・柳味四反地道路 10 次調査』2013（公財）松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財  
センター  
高尾和長はか 『東本道路・枝松道路』1996（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター



#### A 榛味四反地遺跡23次調査(本調査地)

- |                      |                     |                     |                |
|----------------------|---------------------|---------------------|----------------|
| ① 榛味高木遺跡2次調査         | ② 榛味高木遺跡13次調査       | ③ 榛味四反地遺跡5次調査       | ④ 榛味四反地遺跡6次調査  |
| ⑤ 榛味四反地遺跡7次調査        | ⑥ 榛味四反地遺跡8次調査       | ⑦ 榛味四反地遺跡9次調査       | ⑧ 榛味四反地遺跡10次調査 |
| ⑨ 榛味四反地遺跡11次調査       | ⑩ 榛味四反地遺跡12次調査      | ⑪ 榛味四反地遺跡13次調査      | ⑫ 榛味四反地遺跡14次調査 |
| ⑬ 榛味四反地遺跡16次調査       | ⑭ 榛味四反地遺跡17次調査      | ⑮ 榛味四反地遺跡18次調査      | ⑯ 榛味四反地遺跡19次調査 |
| ⑰ 榛味四反地遺跡20次調査       | ⑱ 榛味四反地遺跡21次調査(I区)  | ⑲ 榛味四反地遺跡21次調査(II区) |                |
| ⑳ 榛味四反地遺跡21次調査(III区) | ㉑ 榛味四反地遺跡21次調査(IV区) | ㉒ 榛味四反地遺跡22次調査      |                |
| ㉓ 榛味地区確認調査(G区)       | ㉔ 榛味地区確認調査(H区)      | ㉕ 榛味地区確認調査(I区)      |                |
| ㉖ 榛味地区確認調査(J区)       |                     |                     |                |

第1図 調査地周辺の遺跡分布図

## 第2章 調査の成果

### 第1節 層 位 (第4図)

調査地は、石手川左岸に立地し、標高 38.80 m を測る。調査前は宅地（警察官舎）として使用されていたため、南側は建物解体時に破壊されている。

本調査では、7 層の土層を確認した。

I 層：客土、造成土（解体時の礫を含む）、調査区全域で検出した。

II 層：灰色土（5Y 6/1）、耕作土、調査区北東部で検出した。

III①層：灰オリーブ色土（5Y 6/2）、耕作土と床土の混合土、調査区北側で検出した。

III②層：明黄褐色土（10YR 6/6）、水田床土、調査区西側で部分的に検出した。

IV 層：黄灰色土（2.5Y 5/1）、砂混じり（包含層）、調査区北東部で検出した。

V 層：黒褐色土（7.5YR 3/1）（包含層）、調査区北東部で検出した。

VI 層：褐灰色土（10YR 4/1）、調査区北側で検出した。

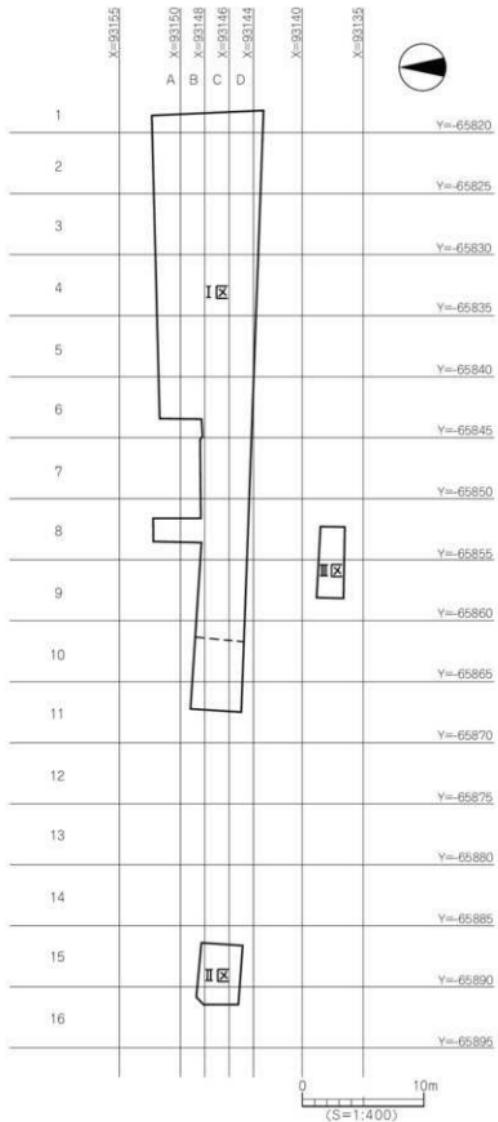
VII 層：橙色土（5YR 6/6）、調査区北側で検出した（A T 火山灰の可能性あり）。VI 層、VII 層は地山。

造構は、V 层上面と VI 层上面の 2 面で検出した。

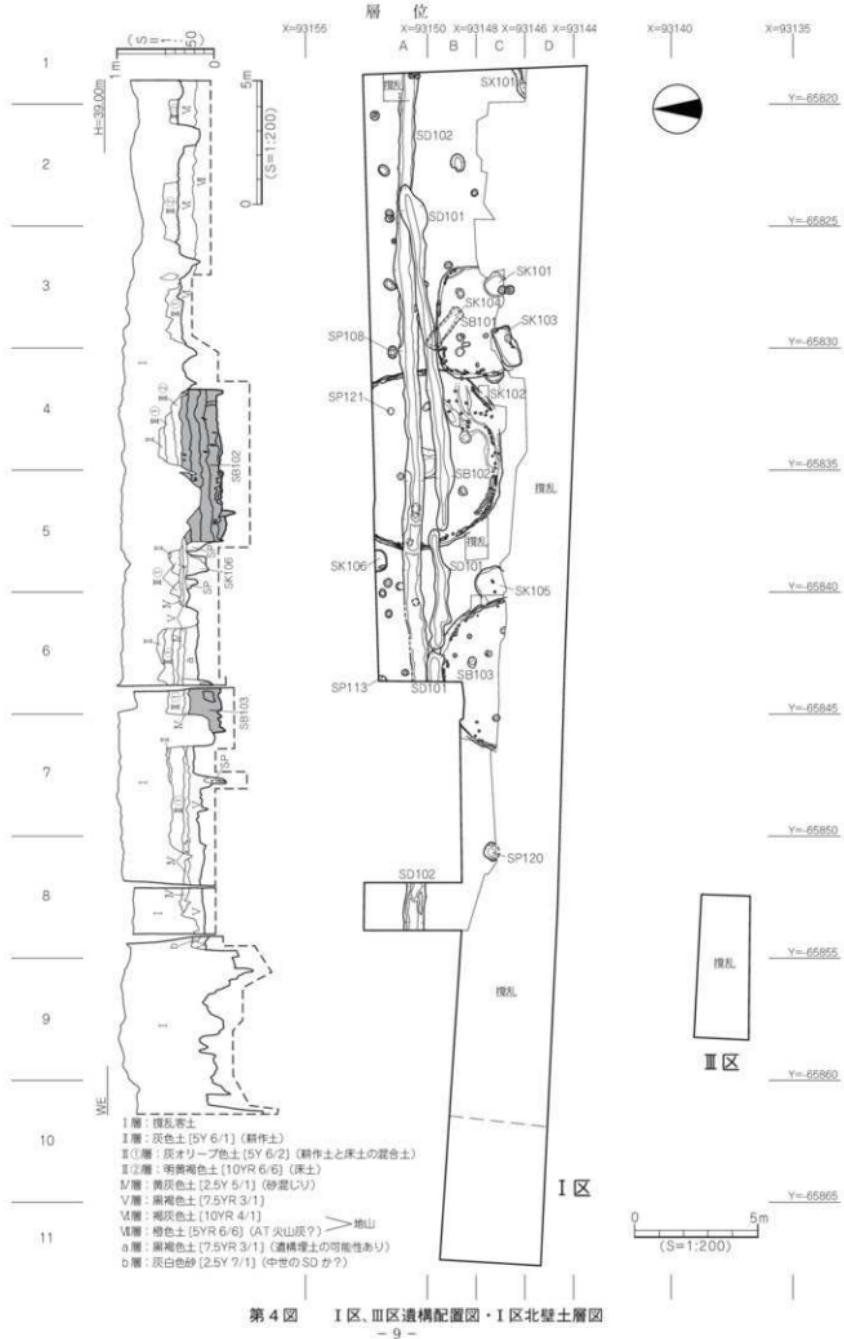


第2図 調査地位置図

調査の成果



第3図 区割り図



第4図 I区、III区遺構配置図・I区北壁土層図

## 第2節 遺構と遺物

検出した主な遺構は、竪穴建物4棟、溝2条、土坑6基、性格不明遺構1基、柱穴24基である。遺物は遺構内と第IV層、第V層から出土している。遺物には、弥生土器（甕形土器、壺形土器、高坏形土器）、土師器（甕）、須恵器（坏身、坏蓋、壺、高坏）、石製品（台石、砥石、石鎌、石庖丁、紡錘車）、鐵製品、ガラス玉がある。その数量は、遺物収納箱（600×440×320mm）14箱である。遺構の帰属時期は、出土遺物を基準として3期に大別される。I期は弥生時代後期、II期は古墳時代、III期は古代に大別できる。

以下、時代ごとに主な遺構と遺物を取り上げて報告を行う。

### 1. 弥生時代

検出した遺構は、基本土層の第VI層上面（第2面）より竪穴建物3棟である。

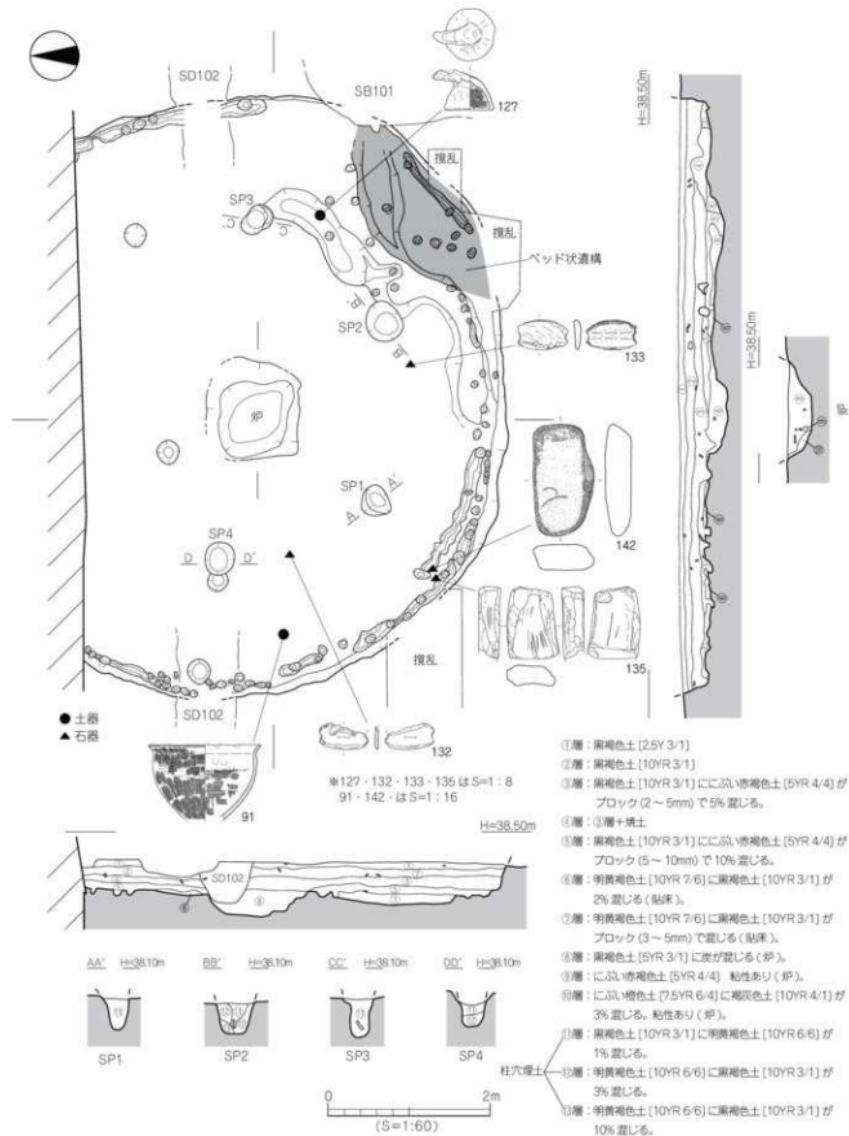
#### 1) 竪穴建物（SB）

SB102（第5～19図、図版4～5・8・9・10）

SB102はI区中央部A4～C5区に位置し、SB101、SD101・102に切られ、南側の一部は官舎解体時に削平され北側は調査区外に続く。平面形態は円形であり、規模は東西長7.34m、南北検出長5.24m、壁高34cmを測る。住居埋土は7層に分別でき、①層：黒褐色土（25Y 3/1）、②層：黒褐色土（10YR 3/1）、③層：黒褐色土（10YR 3/1）にぶい赤褐色土（5YR 4/4）がブロック（2～5mm）で5%混じる。④層：③層に焼土が混じる。⑤層：黒褐色土（10YR 3/1）にぶい赤褐色土（5YR 4/4）がブロック（5～10mm）で10%混じる。⑥層：明黄褐色土（10YR 7/6）に黒褐色土（10YR 3/1）が2%混じる（貼床）。⑦層：明黄褐色土（10YR 7/6）に黒褐色土（10YR 3/1）がブロック（3～5mm）で混じる（貼床）。内部施設には炉、ベッド状遺構（高床部）、貼り床、柱穴、周壁溝がある。炉は建物の中央に位置し、平面形態は方形を呈し、規模は東西長1.28m、南北長1.14m、深さ34cmを測る。炉埋土は3層に分層でき、⑧層：黒褐色土（5YR 3/1）炭混じり、⑨層：にぶい赤褐色土（5YR 4/4）（部分的に粘性を持つ）、西側炉壁に⑩層：にぶい橙色土（7.5YR 6/4）に粘性を持つ褐灰色土（10YR 4/1）が3%混じる。ベッド状遺構は南東部に長さ2m、幅1m検出した。貼り床は、厚さ8～20cmを測り建物の全体に検出した。主柱穴は、4本（SP1～4）を検出した。本来は、調査区外の2本と併せて6本柱になると思われる。柱穴の平面形態は円形で、規模は径47～32cm、深さ28～54cmを測る。周壁溝は壁体に沿って廻り、部分的に小ピットになるところがある。規模は幅4～21cm、深さ2～8cmを測る。小ピットの規模は径4～16cm、深さ4～18cmを測る。出土遺物には、弥生土器、石庖丁、台石、鉄製品、焼土、炭化物がある。

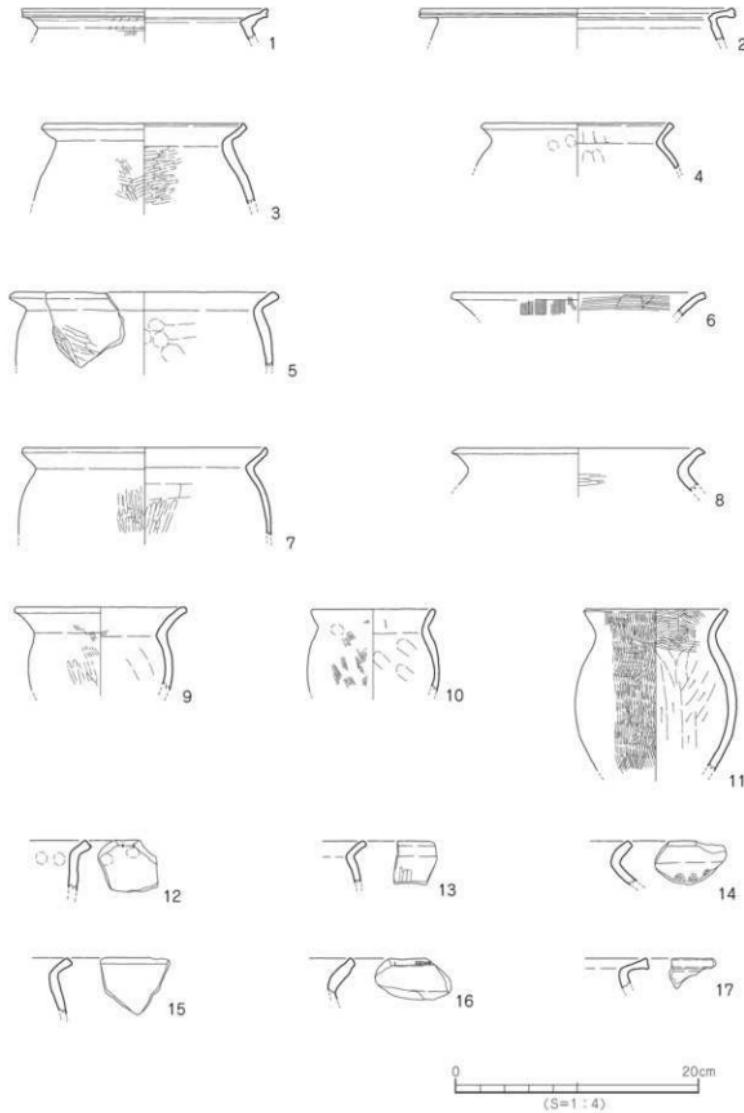
#### 出土遺物（1～152）

1～50は甕形土器。1～17は口縁部。1の口縁端面には2条の凹線が巡り、頸部内面に1条の沈線を施す。2は短く水平気味に伸びる口縁部。口縁端面と頸部内面に1条の凹線が巡る。3の口縁端部は肥厚される。4～7は短く外上方に伸びる口縁部。4の内面はハケ後ナデ調整が残る。5の外面、7の内外面、8の内面はミガキ調整が残る。9・10の口縁端部は丸い。11は外反する口縁部で、端部は「コ」字状である。12の口縁端部に刻目を施す。13の口縁端部は丸く、頸部外間に



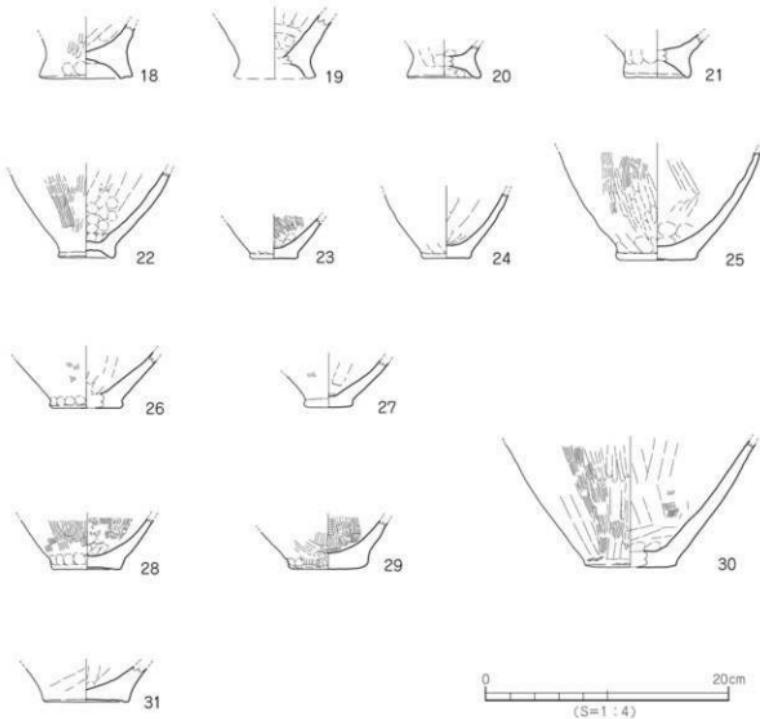
第5図 SB102測量図・遺物出土状況図

調査の成果



第6図 SB102 出土遺物実測図 (1)

布目の圧痕がみられる。15の口縁端部は「コ」字状である。16の口縁端部に刻目を施す。17の口縁端面は強いヨコナデによりやや窪む。18～22はくびれの上げ底。20・22に黒斑がみられる。23～49は平底。23は黒斑がみられる。25は厚みのある平底で、中央部が僅かに窪む。27は底部外面にヘラ記号がみられる。28・31は中央部が僅かに窪む。32は炉内出土品で、黒斑がみられる。33も炉内出土品。僅かに上げ底で、黒斑がみられる。34は中央部が僅かに窪む。35は突出した丸みを持つ小さな底部。内面に黒斑がみられる。36は僅かに上げ底。37は丸みを持つ小さな底部。38は中央部が僅かに窪む。39・40は僅かに窪む小さな底部。41～44は小さな平底。45は丸みを持つ小さな底部。48は僅かに窪む底部。内面に工具痕が残る。49は僅かに丸みを持つ。50の外面は工具によるナデが残る。51～90は壺形土器。51は外反口縁で、端部は「コ」字状に丸い。胴部は丸く黒斑がみられる。52・53は外反する口縁部。53の端部は「コ」字状に丸い。54は炉内出土の長頸壺。頸部外面に、7条と10条の櫛描沈線文を施す。55・56は直口口縁。57の外面に16条の沈線文を施す。58は外反口縁。



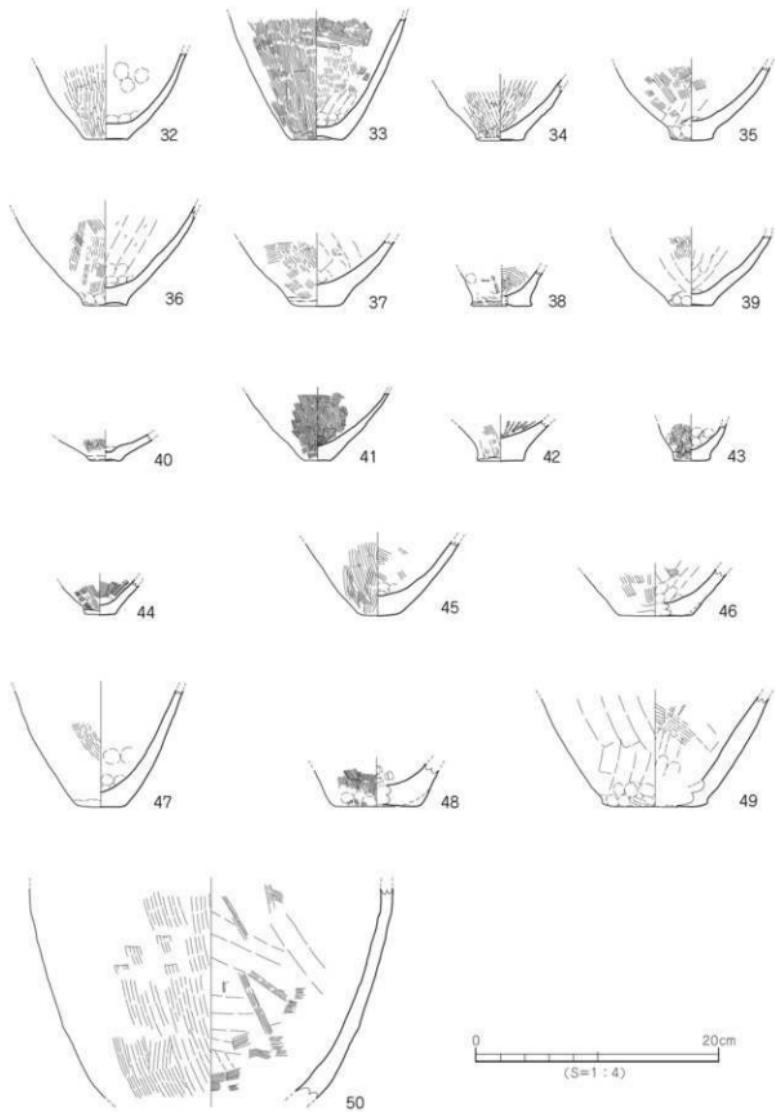
第7図 SB102 出土遺物実測図 (2)

口縁端面はナデにより窪む。59～62は口縁端部を拡張し59・60は凹線文を3条、61・62は2条施す。63は口縁端面に刻目を施す。64は口縁端部を上下に拡張する。65は複合口縁壺。66は口縁端面に凹線文4条と円形浮文を施す。67は複合口縁壺。68は炉内出土品。口縁部は直立し、端部は尖り気味に丸い。69は無頭壺。口縁外面に沈線文を8条施す。70は複合口縁壺の拡張部で、外面に波状文を施す。71は頸部に櫛状工具による沈線文4条が巡る。72は直立する外面に沈線文を16条巡らす。73・74は肩の張らない胴部。75は頸部に刻目を持つ突帯文を貼り付ける。76は胴部の小片。外面に円形のスタンプ文を施す。77は胴部片。外面に竹管状のスタンプ文を施す。78は外面に櫛描波状文を施す。79は胴部外面に直線状の線刻がみられる。80は炉内出土品。胴部外面に直線状の線刻が2本みられる。81は丸みを持つ小さな底部。胴部外面にヘラ工具による直線文がみられる。82～90は底部。82は炉内出土品で、丸みを持つ小さな底部。83は平底。外面にミガキ調整がみられる。84はわずかに上げ底。85は厚みがある平底。外面に黒斑がみられる。86は小さな平底。87は外面にミガキ調整がみられる。88は底部外面にヘラ記号がみられる。89は底部外面に「×」のヘラ記号がみられる。90は柱穴内出土品(SP3)。外面にミガキ調整が残る。91～112は鉢形土器。91・92は大型品。91～96の口縁部は短く外反し、口縁端部は「コ」字状である。94・95の外面にはミガキ調整が残る。97～107は直口口縁。97は炉内出土品で、小さな平底。外面に黒斑有り。98の口縁端部は、ナデにより面を持つ。99・100の口縁端部は尖り気味である。99は黒斑有り。102の口縁端部は内傾する面を持つ。106の外面に1条の沈線文が巡る。107は炉内出土品。黒斑有り。108の底部は小さく丸みを持つ。109はくびれの上げ底である。110は黒斑有り。111は小さく突出する平底。112は大きく「ハ」の字状に開く脚部。円孔を4ヶ所に施す。113～124は高杯形土器。113～118は坏部。113の口縁部は内傾する。114は口縁端面に1条、口縁部外面に3条の凹線文を巡らす。115～117は段を持ち外反する口縁部。口縁端部は丸い。118は段を持つ口縁部。119・120は柱部。119は黒斑有り。120は沈線文6条を巡らす。121～124は脚部。121・122は大きく「ハ」の字状に開く脚裾部。123は段を持ち開き、段上下に半裁竹管文を施す。円孔有り。124は脚端部に半裁竹管文を施す。125・126は器台形土器。125の口縁部は上下に拡張し端部に刻目を施し、端面に3条の凹線文を巡らす。126は口縁上端面に刻目を施す。127は支脚形土器。中空で1本の突起が付く。128は軟質土器の壺の小片で、外面に格子タタキが残る。

129～144は石製品。129～131は石鎌。129は凸基有茎式。先端部を欠失している。130は凹基無茎式。131は平基無茎式。132・133は石庖丁。132は片面が紐擦れの為かやや窪む。石材は緑色片岩。両面は研磨されている。両端部に抉り。133は片面が紐擦れで窪む。両端部に抉り。剥離面と自然面が残る。134～138は砥石。134は仕上げ用砥石。石材は粘板岩。135は断面長方形状で4面に使用痕がみられ良好く使い込まれている。石材は石英粗面岩。136は断面方形で4面に使用痕がみられる。石材は石英粗面岩。137は断面方形で4面とも使用痕がみられ片面が受熱により変色している。石材は石英粗面岩。138の石材は粘板岩。139・140は敲石。139は両端部に敲き痕がみられる。140は下端部と上面に敲き痕が残る。141・142は台石。143・144は剝片。143の石材は赤色珪質岩。

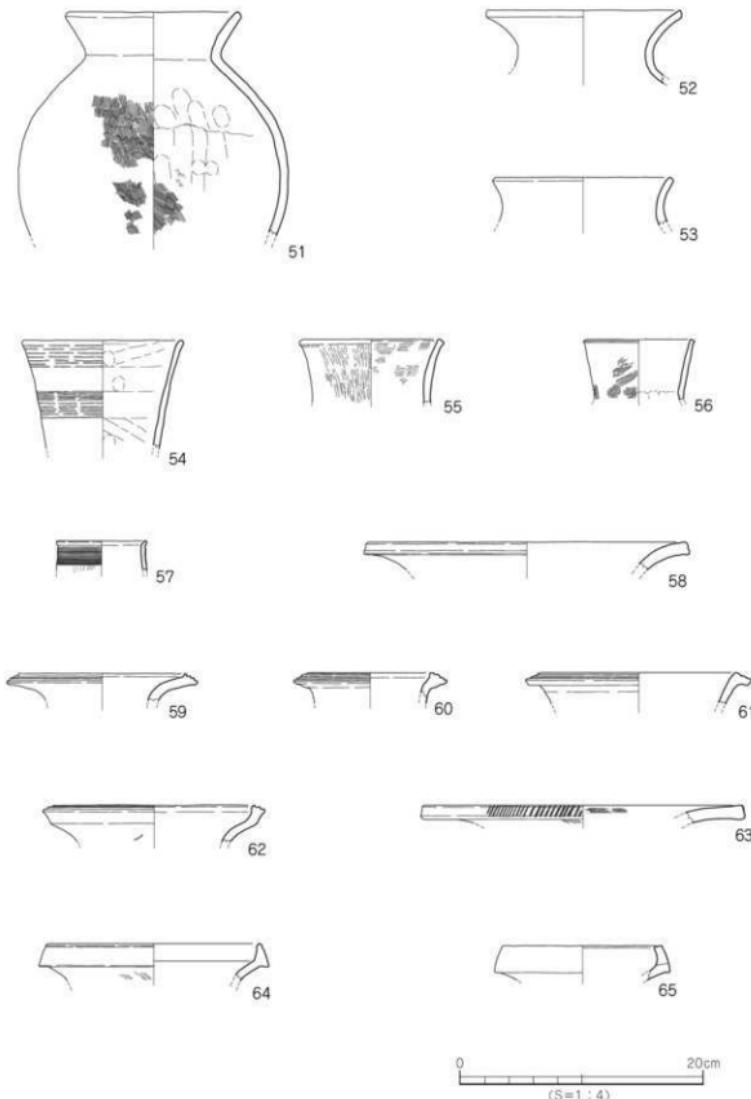
145～152は鉄製品。145は腸抉式平根鎌。先端部は欠損している。146は鑿と思われる。断面方形で先端部と茎部を欠く。147・148は鉈。147は先端部と基部が残る。148は基部。149は方形鉄片。150は塊形滓。151・152は器種不明。151の断面は方形。152の端部は尖る。

時期：出土した遺物の形態よりSB102の廃棄、埋没時期は弥生時代後期後半とする。

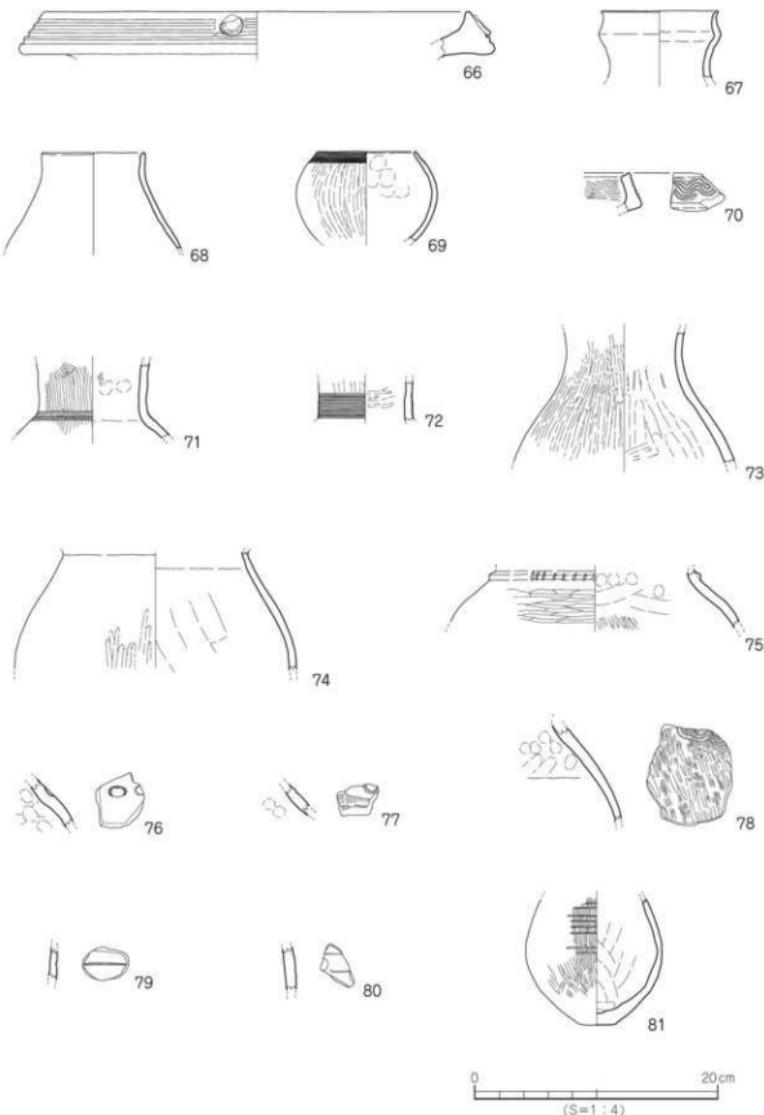


第8図 SB102出土遺物実測図(3)

調査の成果

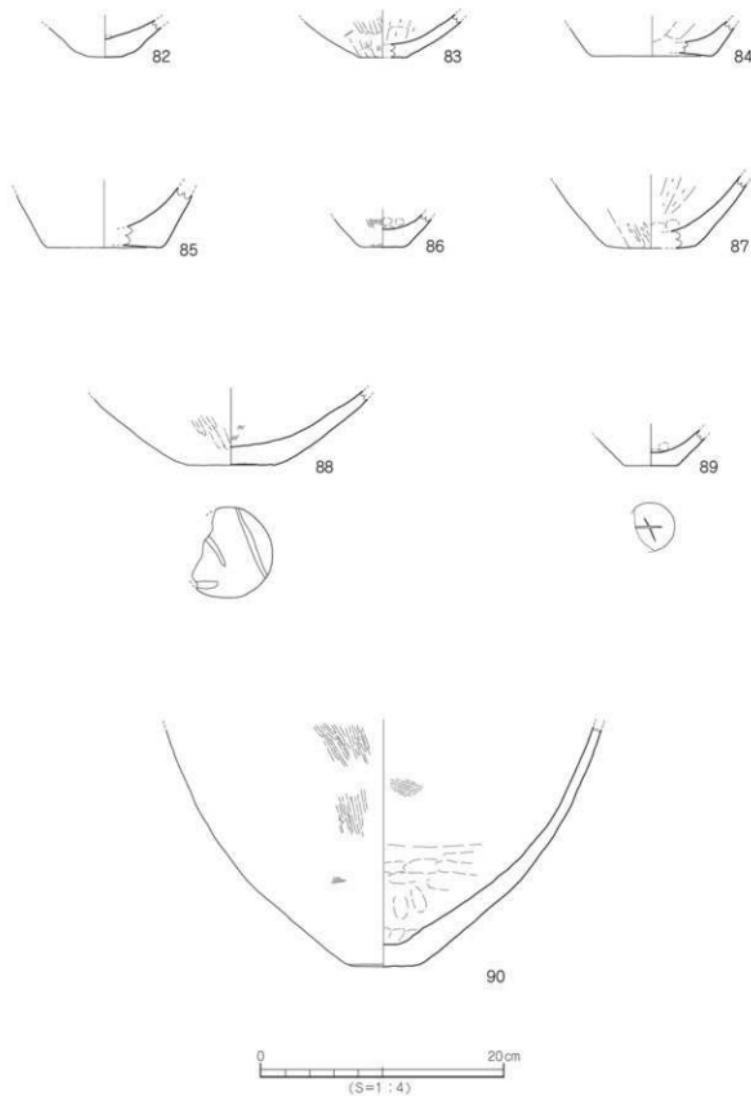


第9図 SB102出土遺物実測図(4)

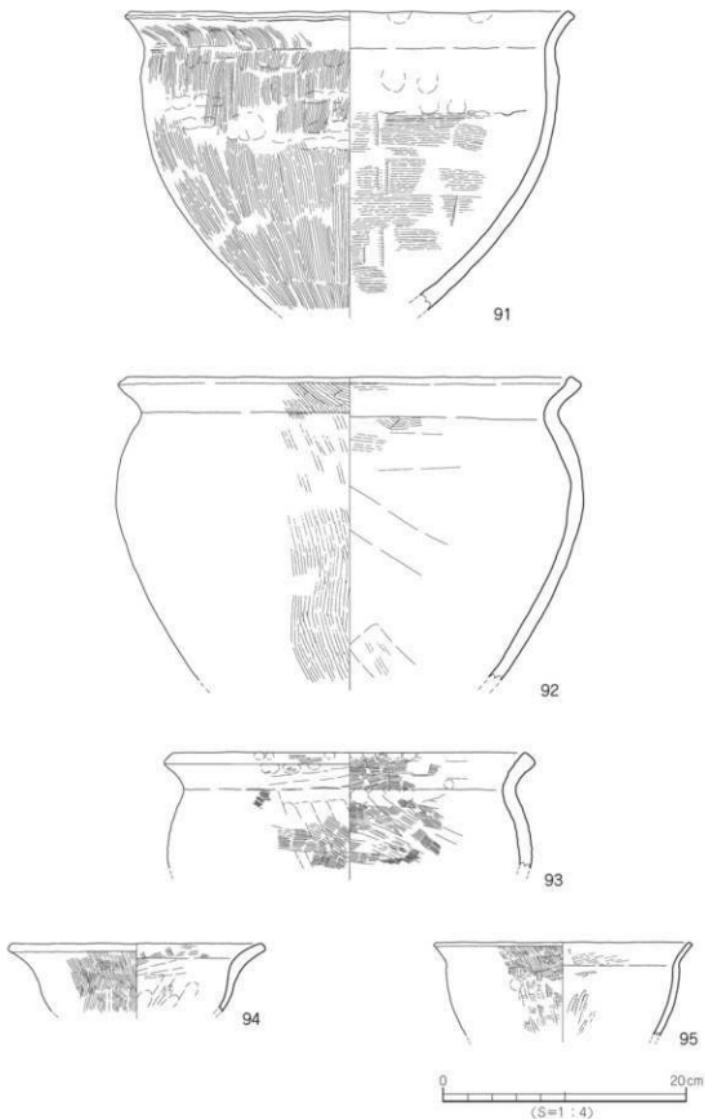


第10図 SB102出土遺物実測図(5)

調査の成果

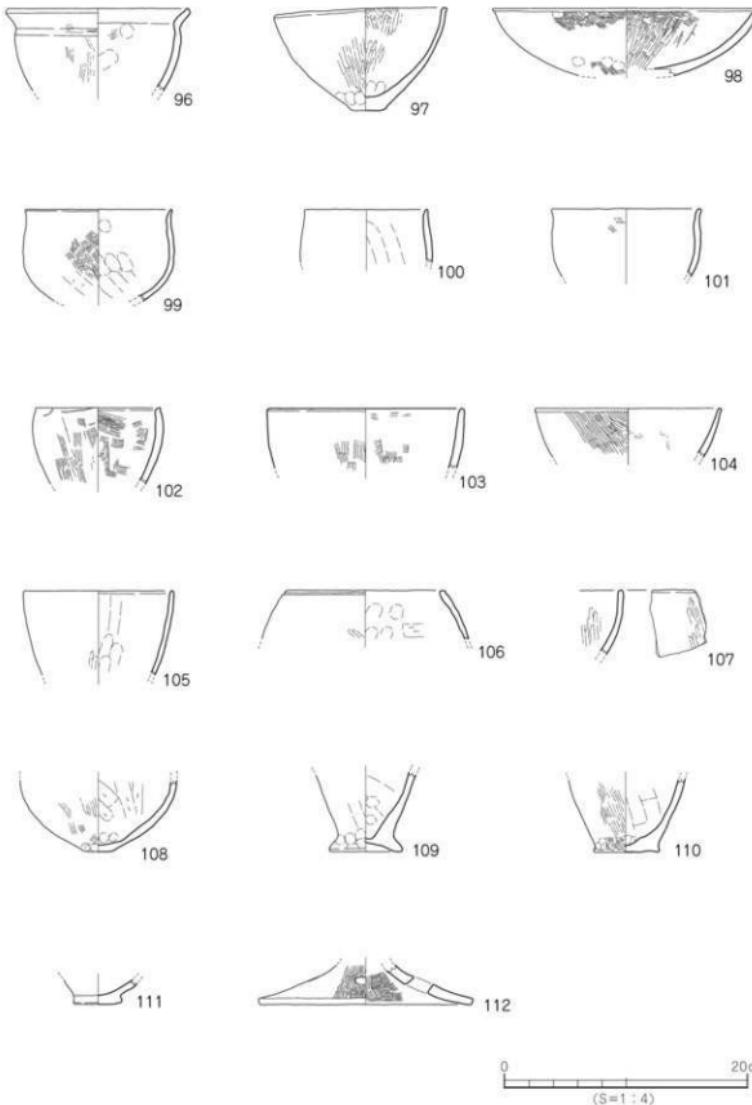


第 11 図 SB102 出土遺物実測図 (6)

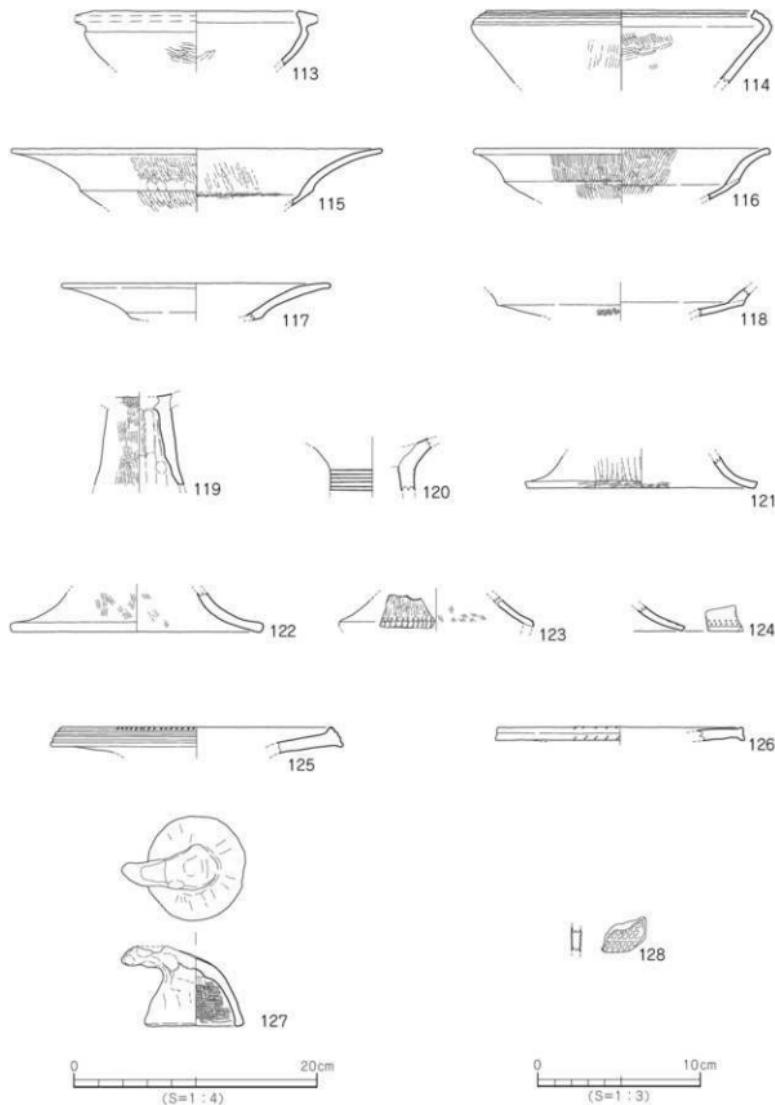


第12図 SB102出土遺物実測図(7)

調査の成果

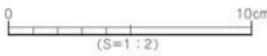
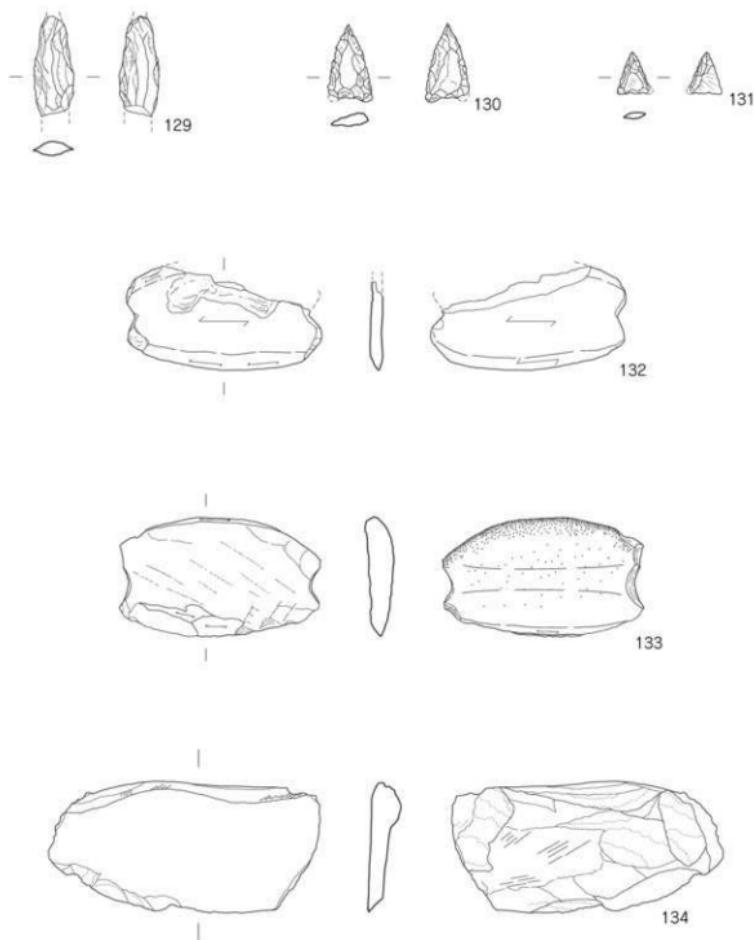


第13図 SB102出土遺物実測図(8)

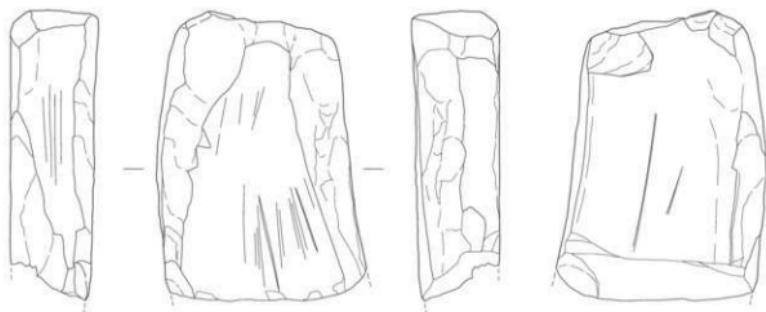


第14図 SB102出土遺物実測図(9)

調査の成果



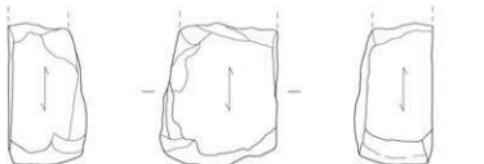
第 15 図 SB102 出土遺物実測図 (10)



135



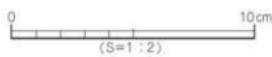
※ ← は、使用面を示す。



136

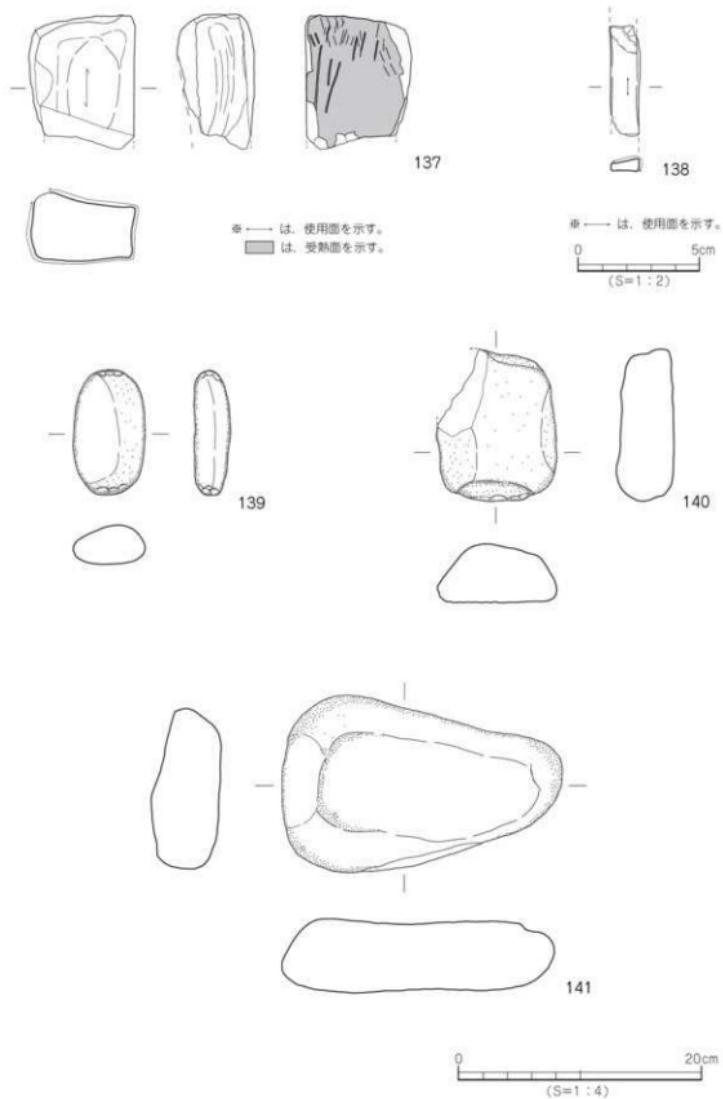


※ ← は、使用面を示す。

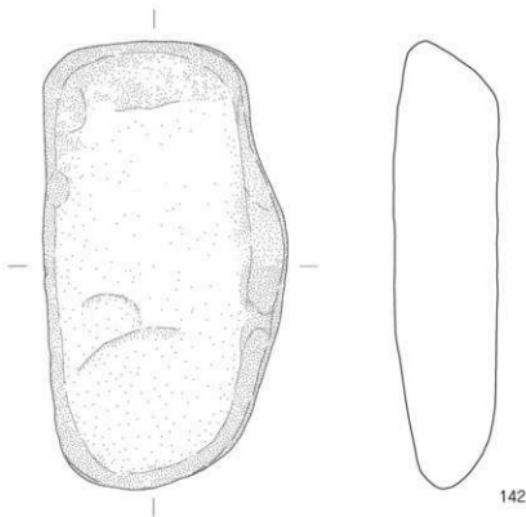


第16図 SB102出土遺物実測図(11)

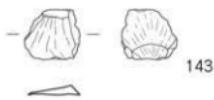
調査の成果



第 17 図 SB102 出土遺物実測図 (12)

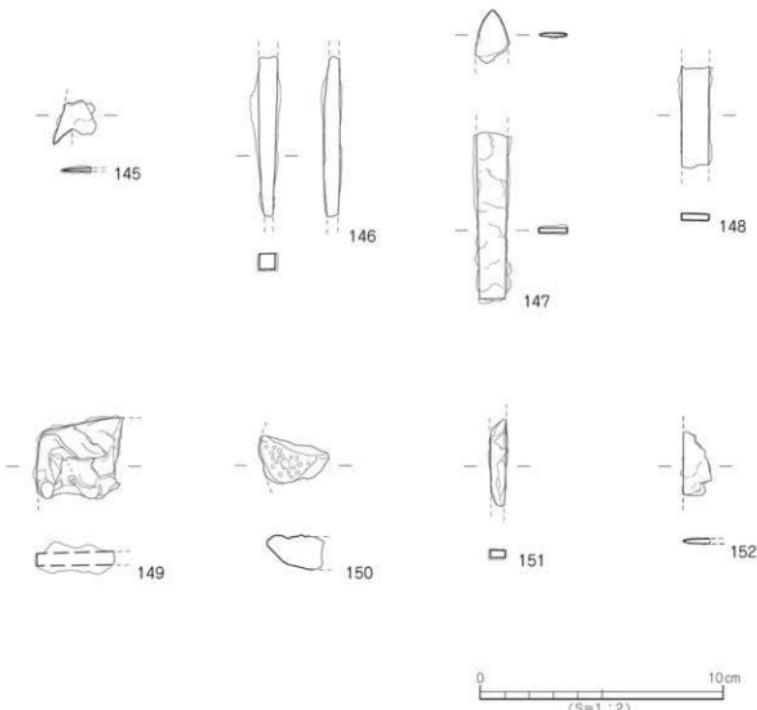


0 20cm  
(S=1:4)



0 5cm  
(S=1:2)

第18図 SB102出土遺物実測図(13)



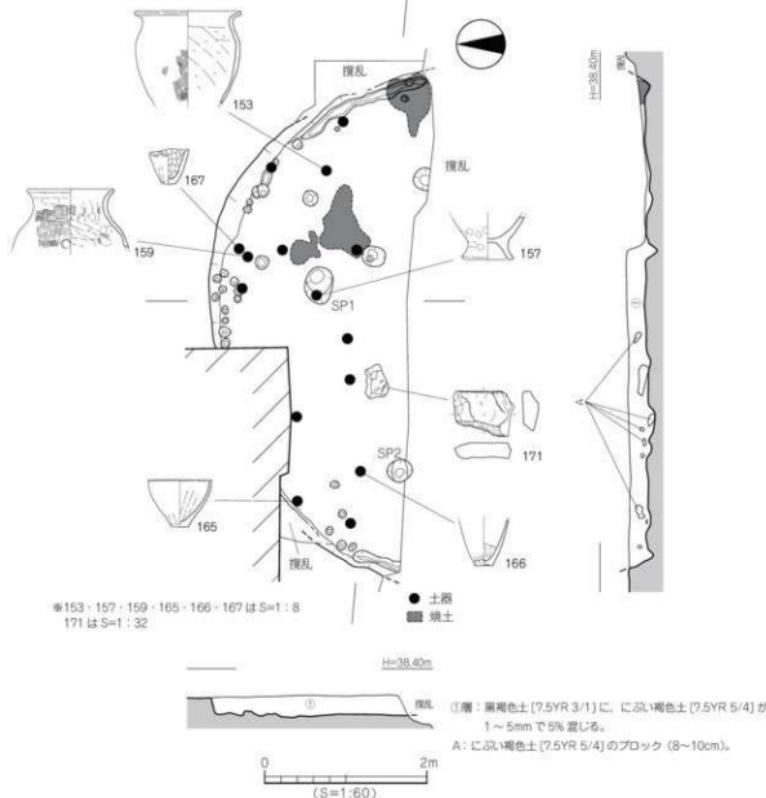
第19図 SB102出土遺物実測図(14)

## SB103(第20~22図、図版5・6・11)

SB103はI区中央西部B6~C7区に位置し、南側は官舎解体時に削平を受け消滅し、北側の一部が調査区外に統く。平面形態は円形である。規模は東西長6.21m、南北検出長2.52m、壁高14~20cmを測る。住居埋土は①層: 黒褐色土(7.5YR 3/1)ににぶい褐色土(7.5YR 5/4)が1~5mmで5%混じる。住居西側にはにぶい褐色土(7.5YR 5/4)が8~10cmのブロックで混じる。内部施設には周壁溝、小ピット、柱穴がある。周壁溝は壁下に沿って検出した。規模は幅8~14cm、深さ2~6cmを測る。小ピットは周壁溝内より検出し、規模は径4~18cm、深さ4~14cmを測る。主柱穴は2基(SP1、2)を検出した。規模から想定すると南側に4本があると思われ、SB102と同様に6本柱になると思われる。柱穴の平面形態は円形で、規模は径24~54cm、深さ38~51cmを測る。出土遺物は弥生土器、台石、焼土、炭化材がある。

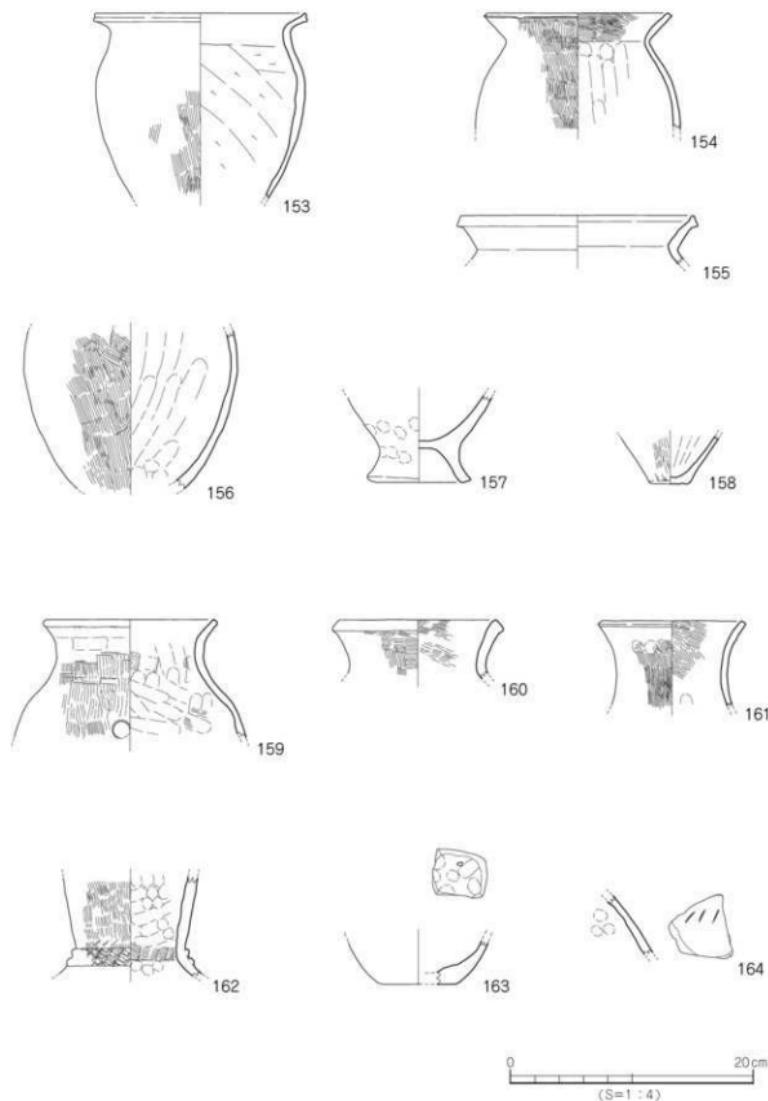
## 出土遺物（153～171）

153～158は壺形土器。153の口縁端面は窪む。内面はケズリ調整を施す。154は内外面にハケメ調整を施す。155の口縁端面は肥厚され窪む。156は胴部片。外面にハケメ調整を施す。157はくびれの上げ底。158は小さな平底。159～162は壺形土器。159は外反する口縁部。胴部外面に径1.5cmの竹管文を施す。160は外反する口縁部。端面は窪む。161は外反する口縁部。端部は「コ」字状である。162は長頸壺の頸部。頸部外面に斜め格子状の刻みを持つ突帯文を貼り付ける。163は平底の底部。内面に押圧痕がみられる。164は胴部片。外面に工具による刻目を施す。165・166は鉢形土器。165は直口口縁。端部は丸みを持つ。166はわずかに上げ底の小さな底部。167はミニチュアの手捏ね土器。内面に指頭痕が顕著に残る。168・169は高壺形土器。168は段を持ち外反する坏部。内外面にミガキ調整を施す。169は「ハ」の字状に開く脚部。外面にミガキ調整が残る。170・171は石製品。

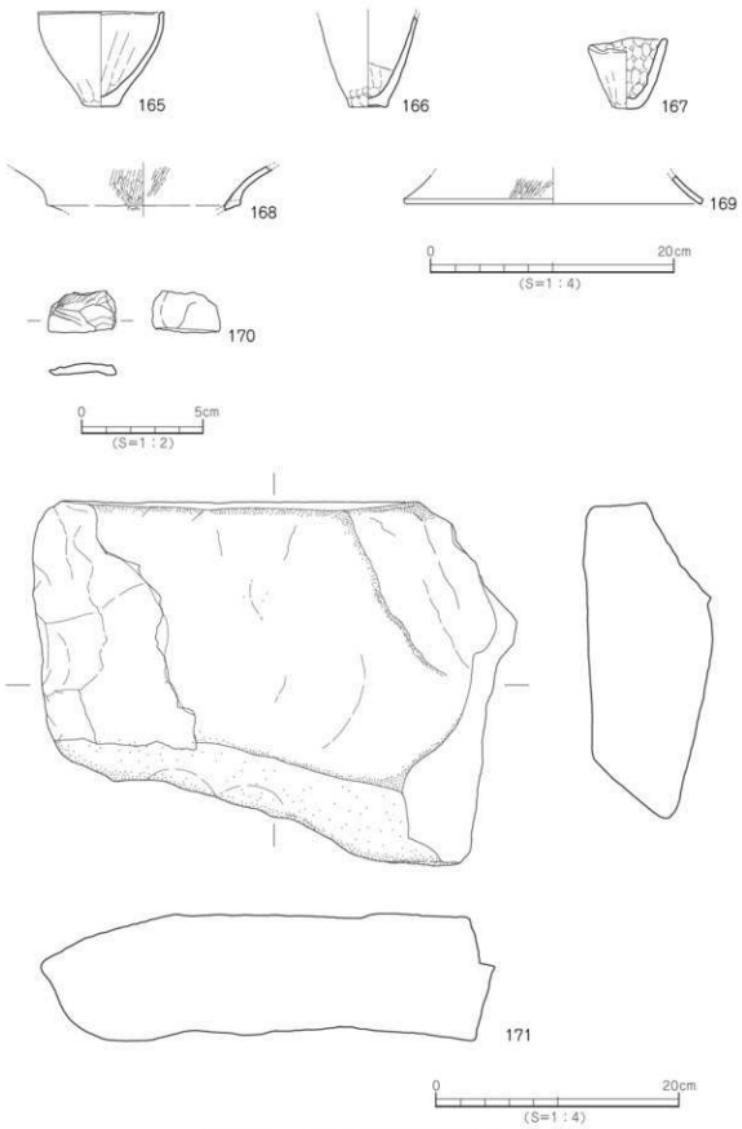


第20図 SB103測量図・遺物出土状況図

調査の成果



第21図 SB103出土遺物実測図(1)



第22図 SB103出土遺物実測図(2)

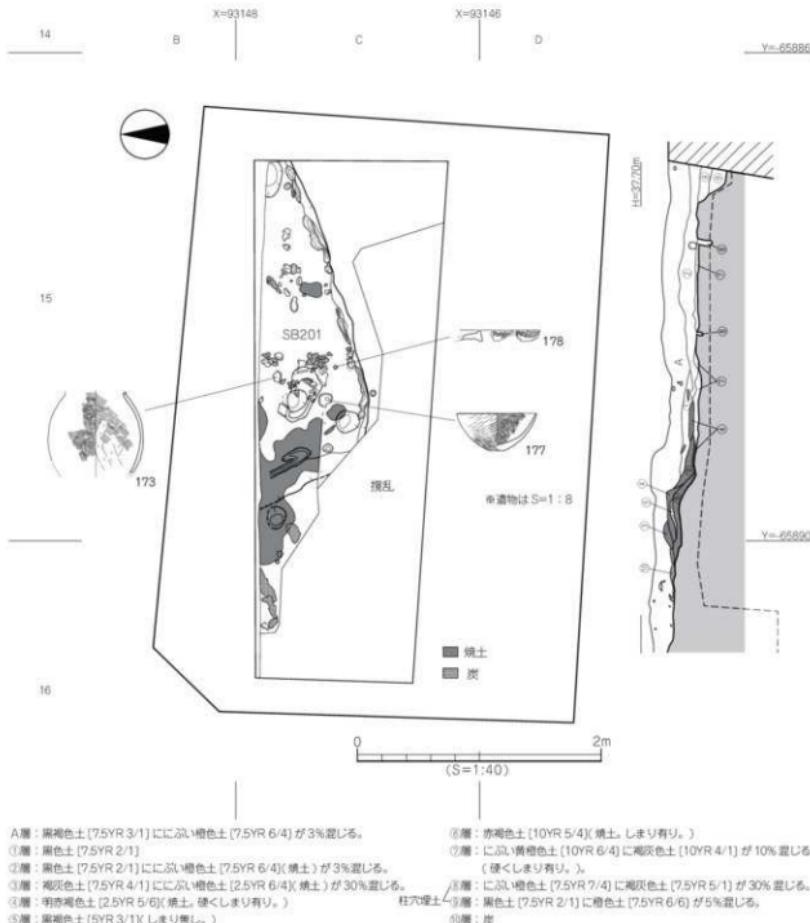
## 調査の成果

170は剥片。171は台石。石材は石英粗面岩。

時期：出土した遺物の形態より、SB103の廃棄・埋没時期は弥生時代後期後半とする。

### S B 2 0 1 (第23・24図、図版7・12)

SB201はII区のC15区に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態はコーナー部を検出したため方形と考えられる。規模は検出長2.63m×0.98m、壁高18cmを測る。内部施設は周壁溝がある。周



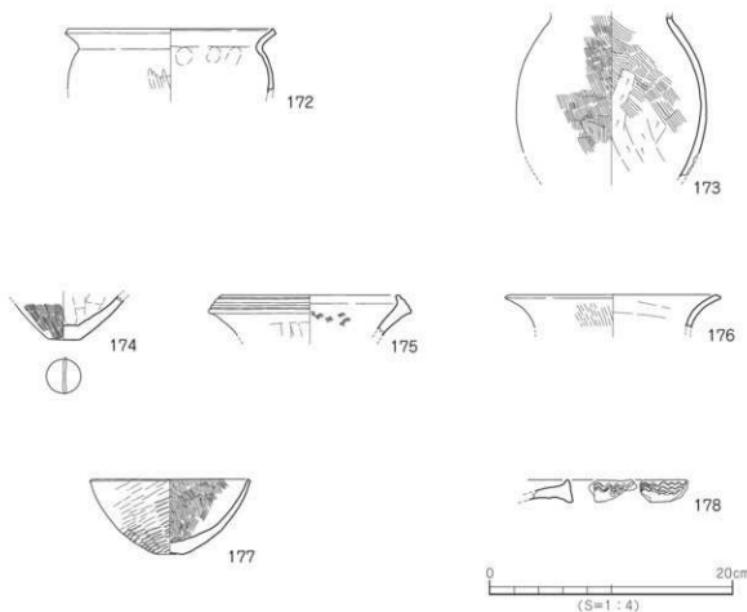
第23図 II区遺構配置図・SB201測量図・遺物出土状況図

壁溝は壁下に位置し、規模は幅2~12cm、深さ2~6cmを測る。住居埋土は7層に分層できる。①層：黒色土(7.5YR 2/1)。②層：黒色土(7.5YR 2/1)ににぶい橙色土(焼土)(7.5YR 6/4)が3%混じる。③層：褐灰色土(7.5YR 4/1)ににぶい橙色土(焼土)(2.5YR 6/4)が30%混じる。④層：明赤褐色土(焼土)(2.5YR 5/6)、硬くしまり有り。⑤層：黒褐色土(5YR 3/1)、しまり無し。⑥層：赤褐色土(焼土)(10YR 5/4)、しまり有り。⑦層：にぶい黄橙色土(10YR 6/4)に褐灰色土(10YR 4/1)が10%混じる。硬くしまり有り。西側に焼土が広く検出された。出土遺物は弥生土器、焼土、炭化材がある。

## 出土遺物 (172~178)

172~174は甕形土器。172は口縁部。端部は「コ」字状である。173は胴部。外面に煤の付着がみられる。174は小さな平底。底部外面中央部に直線状の沈線がみられる。黒斑有り。175~176は壺形土器。175は口縁部。端部は拡張され端面に3条の凹線文を巡らす。176は外反する口縁部。177は鉢形土器。直口口縁の端部は外傾する面を持つ。底部は小さな平底。黒斑有り。178は器台形土器。口縁端面に波状文を施す。

時期：出土した遺物の形態より、SB201の廃棄・埋没時期は弥生時代後期後半とする。



第24図 SB201出土遺物実測図

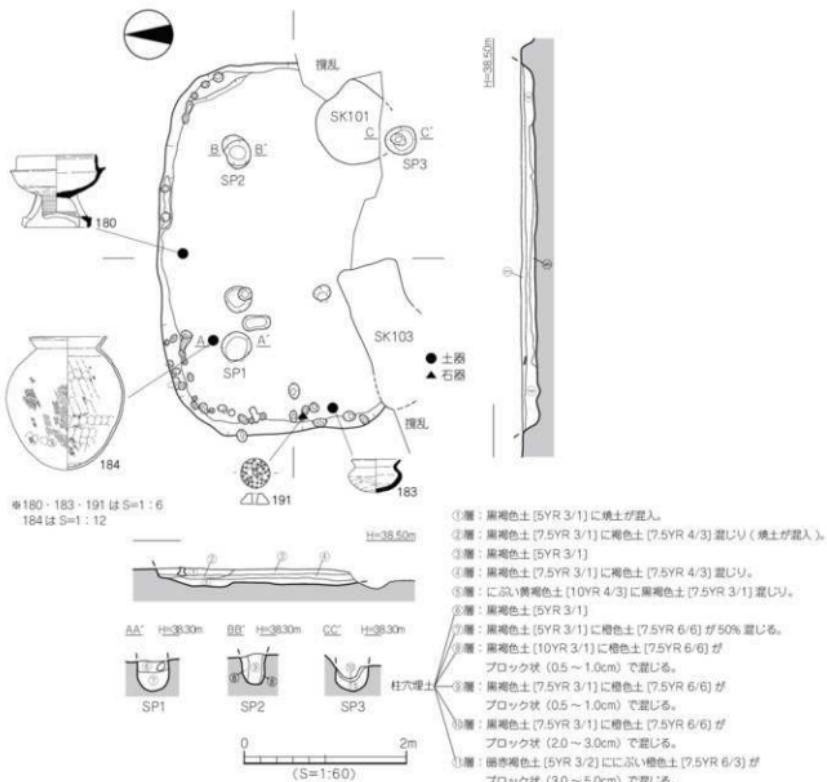
## 2. 古墳時代

検出した遺構は基本土層の第VI層上面（第2面）より、竪穴建物1棟と土坑6基、溝1条である。

## 1) 竪穴建物（SB）

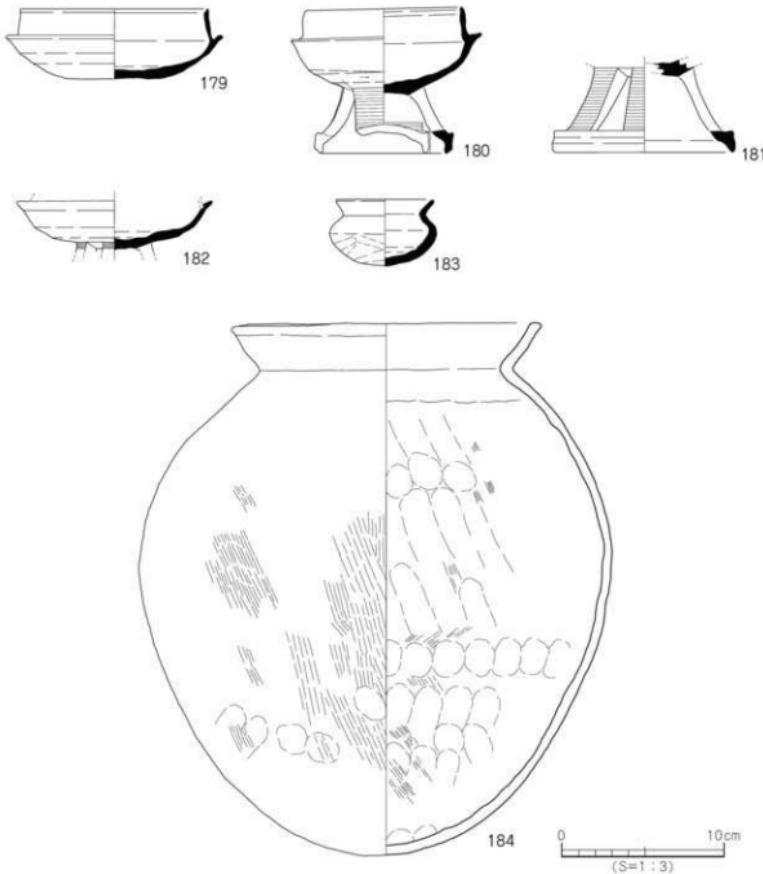
SB101（第25～27図、図版2～4・12）

SB101はI区中央東のB3～C4区に位置しSB102、SK102・104を切り、SK101・103に切られ、南側は官舎解体時に削平を受け消滅している。平面形態は方形で規模は東西長4.51m、南北検出長2.38m、壁高14～21cmを測る。内部施設は主柱穴、小ピットがある。主柱穴は3基（SP1～3）を検出した。もう1基はSK103に切られている。平面形態は円形で、規模は径31～43cm、深さ31～41cmを測る。小ピットは壁下にあり、平面形態は円形で、規模は径4～16cm、深さ6～11cmを測る。



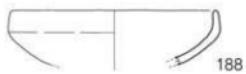
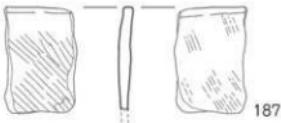
第25図 SB101測量図・遺物出土状況図

建物埋土は5層に分かれ、①層：黒褐色土（5YR 3/1）に焼土が混入。②層：黒褐色土（7.5YR 3/1）に褐色土（7.5YR 4/3）混じり（焼土が混入）。③層：黒褐色土（5YR 3/1）。④層：黒褐色土（7.5YR 3/1）に褐色土（7.5YR 4/3）混じり。⑤層：にぶい黄褐色土（10YR 4/3）に黒褐色土（7.5YR 3/1）混じり。遺物は、土師器の壺（184）が押しつぶされた状態で建物北西部より出土した。北側中央では、須恵器の高坏（180）の脚部の一部が打ち欠かれた土器が、坏部を下にした状態で出土した。南西部では、石製の紡錘車（191）と須恵器の小型壺（183）が出土した。打ち欠き土器の高坏と小型壺、紡錘車の周辺には焼土が検出された。

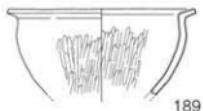


第26図 SB101 出土遺物実測図（1）

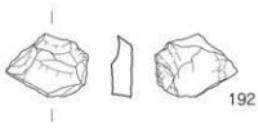
調査の成果



0 10cm  
(S=1:3)



0 20cm  
(S=1:4)



0 10cm  
(S=1:2)



第27図 SB101出土遺物実測図(2)

## 出土遺物（179～193）

179～183は須恵器。179は壺身。たちあがりは直立気味で、端面は内傾し窪む。受部は外上方に短く伸び、端部は丸い。180～182は高壺。180のたちあがりは直立し、端部内面は沈線状に窪む。受部は短く水平に伸び、端部は丸い。脚部は下方に屈曲し、脚部の一部が打ち欠かれている。透かしは3方向である。181は脚部。脚裾部は屈曲する。長方形の透かしを3方向に施す。182は壺部から基部の破片。受部は短く水平気味に伸び、端部は丸い。3方向に透かしを施す。183は小型壺の完形品。扁平な胴部に口縁部は短く外に伸び、口端部は尖り気味に丸い。胴中位から底部に手持ちによるヘラケズリが顯著に残る。184～188は土師器。184は復元完形品の甕。丸底の底部で、胴部は中位で最大径を測る。口縁部は「く」の字状で僅かに内済し、端部は外面で段を持ち水平な面を持つ。黒斑有り。185～187は甕の口縁部片。185・186の端部は内傾する面を持つ。187の端部は「コ」字状に丸い。188は甕。口縁部は直立し、端部は丸い。189・190は弥生土器。189は鉢形土器。水平気味に短く伸びる口縁部で、口縁端部は「コ」字状である。内外面にミガキ調整が丁寧に施される。190は小さな丸みを持つ甕形土器の底部片。黒斑有り。191～193は石製品。191は紡錘車の完形品。径0.4cmのコンパス文を上面に5ヶ所、側面に27ヶ所の計32ヶ所施す。石材は蛇紋岩。192・193は剥片。192の石材はサスカイト。193の石材は赤色珪質岩。

時期：出土した遺物の形態より、SB101の廃棄・埋没時期は古墳時代中期後半とする。

## 2) 溝（SD）

## SD102（第28～33図、図版6・7・13）

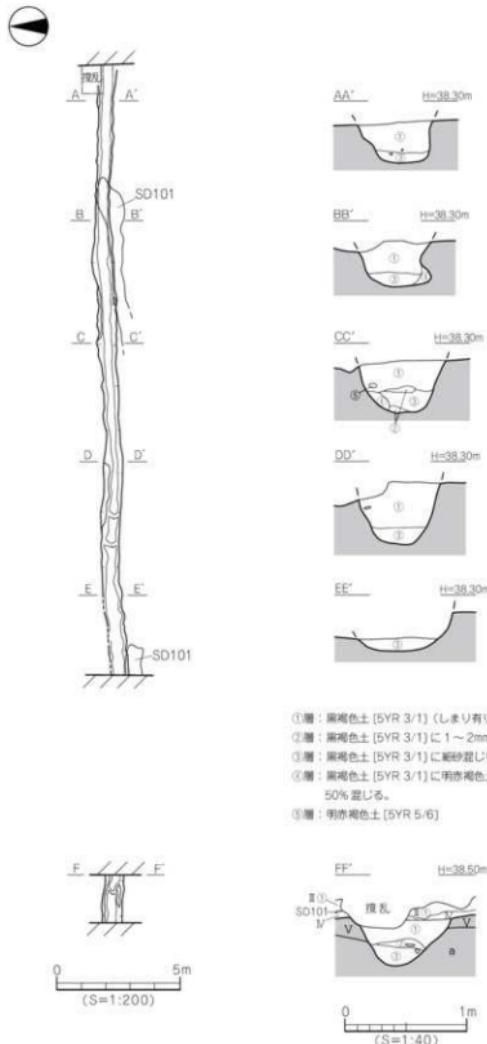
SD102はI区北側のA1～A8区に位置する東西方向の溝で、SB102を切りSD101に切られ、溝東側と西側は調査区外に続く。規模は長さ35.04m、幅56～81cm、深さ32～54cmを測る。断面形態は「U」字状である。東から西に傾斜しているが、A4・5区周辺が深くなっている。埋土は5層に分層でき、①層：黒褐色土（5YR 3/1）、しまり有り、粘性無し。②層：黒褐色土（5YR 3/1）に1～2mmの石混じり。③層：黒褐色土（5YR 3/1）に細砂混じり。④層：黒褐色土（5YR 3/1）に明赤褐色土（5YR 5/6）が50%混じる。⑤層：明赤褐色土（5YR 5/6）。出土遺物は須恵器、石器、弥生土器がある。遺物は①層を上層、②～⑤層を下層として取り上げを行った。上層、下層からは須恵器が出土している。

## 出土遺物（194～237）

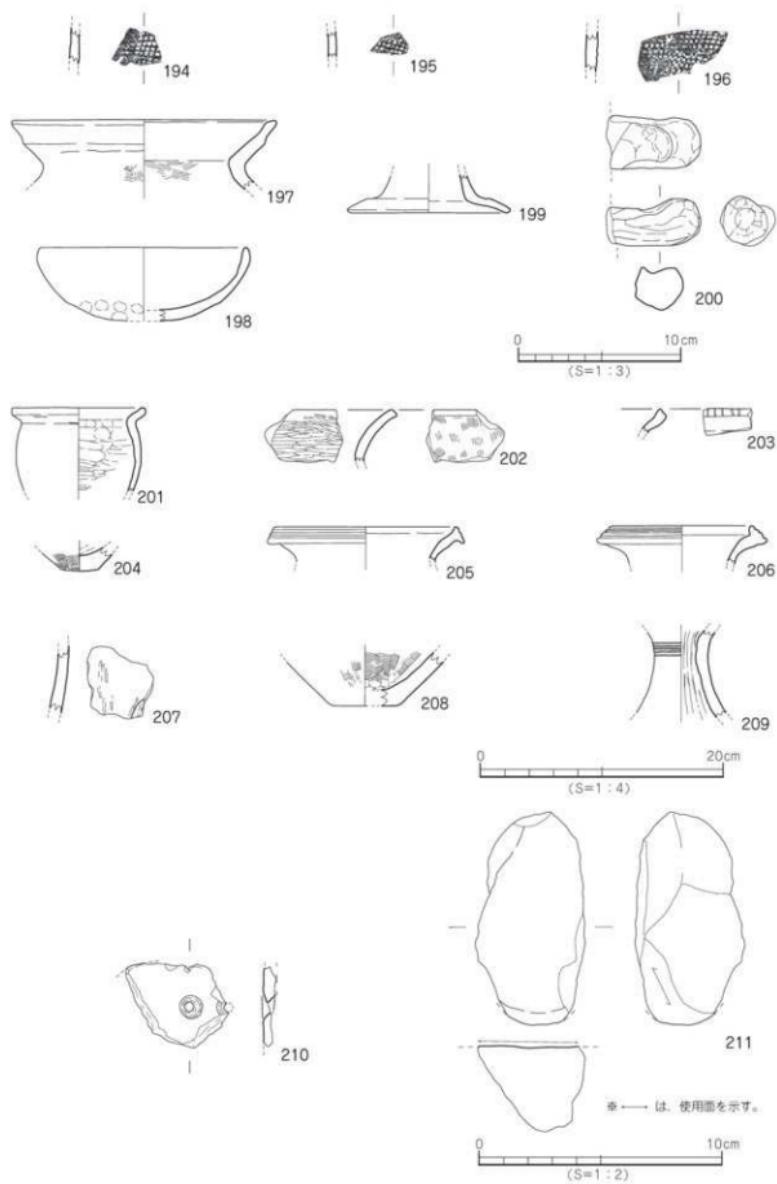
## （下層）

194～196は軟質土器の小片。いずれも外面に格子タタキ痕が残る。197～200は土師器。197は甕。口縁部外面中位に段を持ち口縁端面は内傾する。198は甕。直立する口縁部の端部は丸い。199は高壺。脚裾部は折れ曲がり接地する。200は甕の把手。中央部が窪む。201～209は弥生土器。201～204は甕形土器。201は短く伸びる口縁部で、端部は丸い。202は外反する口縁部。端部は「コ」字状である。203は口縁端部に刻目を施す。204は丸みを持つ小さな底部。205～208は壺形土器。205・206は口縁部。205は口縁端部を上下に拡張し、端面に3条の凹線文を巡らす。206は口縁端部を上下に拡張し、端面に2条の凹線文を巡らす。207は胴部片。外面に線刻がみられる（絵画の一部か）。208は厚みのある平底。209は高壺形土器。基部に5条の沈線文を巡らす。210は石庖丁。2ヶ所に円孔を穿つ。211は砥石。石材は砂岩。

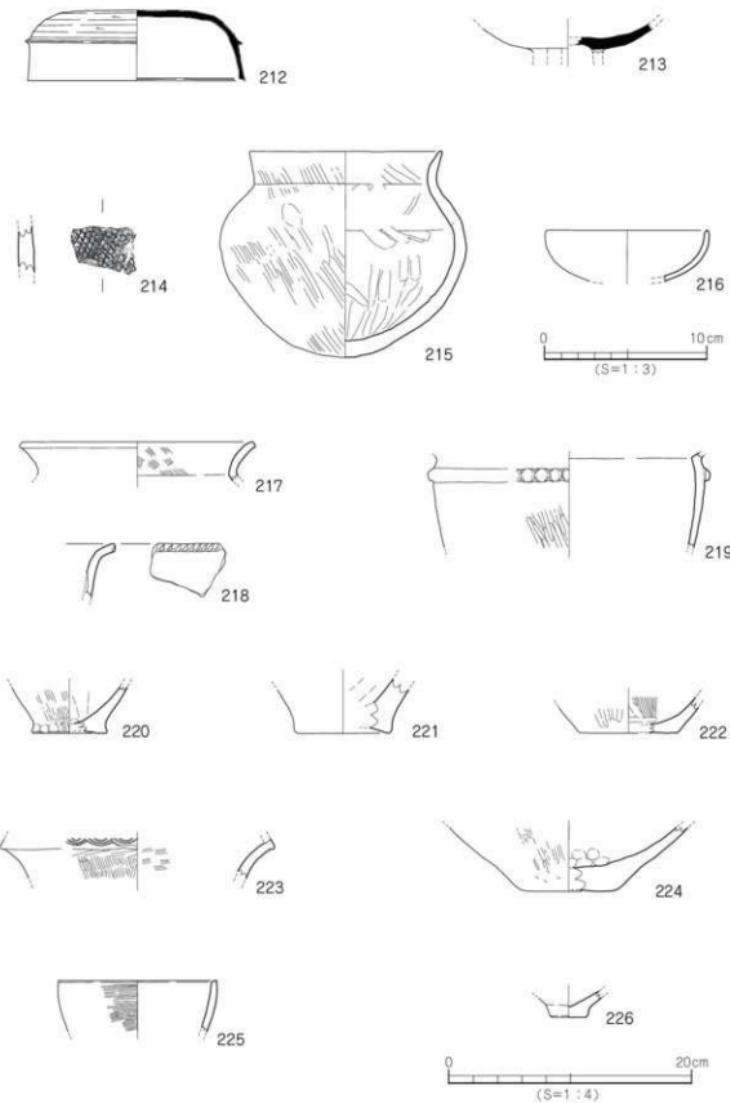
調査の成果



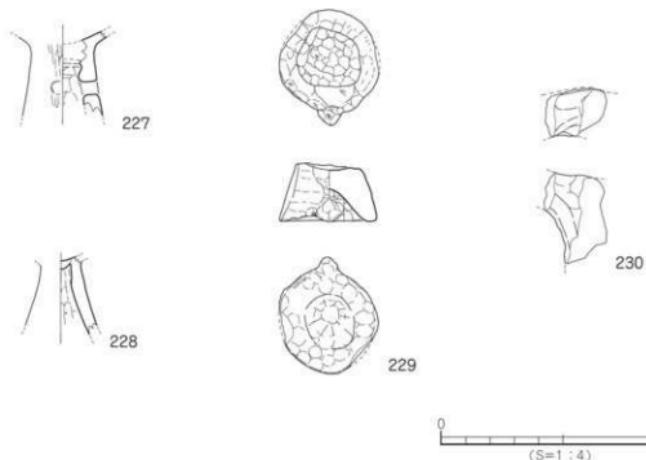
第28図 SD102測量図



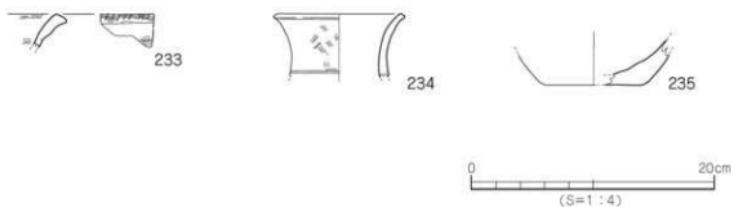
第29図 SD102 下層出土遺物実測図



第30図 SD102上層出土遺物実測図(1)



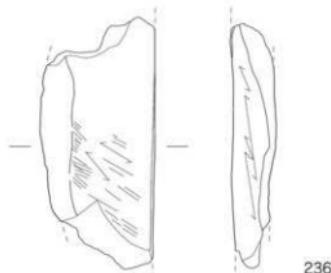
第31図 SD102上層出土遺物実測図(2)



第32図 SD102層位不明出土遺物実測図(1)

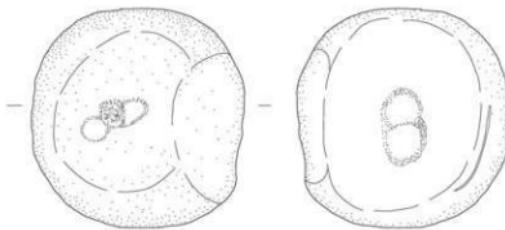
(上層)

212・213は須恵器。212は壺蓋。扁平な天井部。口縁部は直立気味に接地し、端部は内傾する面を持ち窟む。213は高壺。脚部に3方向の透かしの痕跡がみられる。214は軟質土器の壺の胴部片。外面に格子タタキがみられる。215・216は土師器。215は壺。球形の胴部。口縁部は短く直立し、端部は尖り氣味である。黒斑有り。216は塊。直立する口縁部で、端部は丸い。217～230は弥生土器。217～222は壺形土器。217は短く外反する口縁部。218は口縁端部に刻目を施す。219は頸部に押された突帯文を1条貼り巡らす。220は僅かにくびれをもつ上げ底。221は僅かに上げ底。222は平底。223・224は壺形土器。223は複合口縁壺。口縁拡張部に波状文の一部が残る。224は厚みのある平底。

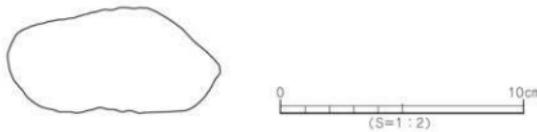


236

※ ← → は、使用面を示す。



237



第33図 SD102層位不明出土遺物実測図(2)

225・226は鉢形土器。225は直口口縁。端部は内傾する面をもつ。226は小さな突出する平底。227・228は高壺形土器の柱部。227は円孔有り。229・230は支脚形土器。229は上げ底で頂面が窪み傾斜し、底部に突起が付く。230は角部の付け根部。

(層位不明)

231は須恵器の坏身。たちあがりは直立し、受部は短く水平に伸び、端部は尖り気味である。232は製塙土器の口縁部片。233～235は弥生土器。233は壺形土器。口縁部は粘土を貼り付けている。234・235は壺形土器。234は外反する口縁部。頸部に1条の沈線文を巡らす。235は平底。煤が付着している。236・237は石製品。236は砥石。237は敲石。

時期：出土した遺物の形態より、古墳時代中期後半とする。

### 3) 土坑 (SK)

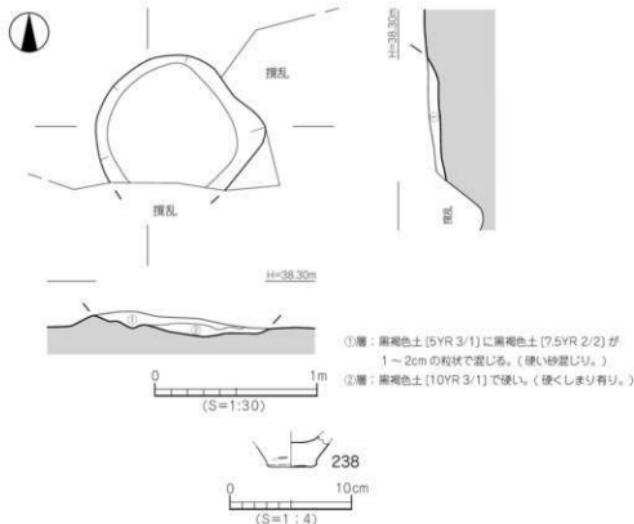
#### SK101 (第34図、図版1・7)

SK101はI区中央東寄りのC3区に位置し、SB101を切る。平面形態は円形で、規模は長さ1.04m～0.78m、深さ6～14cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、①層：黒褐色土(5YR 3/1)に黒褐色土(7.5YR 2/2)が1～2cmの粒状で混じる(硬い砂混じり)。②層：黒褐色土(10YR 3/1)(硬くしまり有り)である。出土遺物は、弥生土器の小片がある。

#### 出土遺物 (238)

238は弥生土器の壺形土器。小さな平底。

時期：埋土と古墳時代中期後半のSB101より後出することから、古墳時代中期後半以降とする。

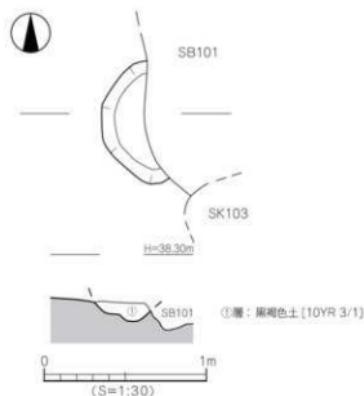


第34図 SK101測量図・出土遺物実測図

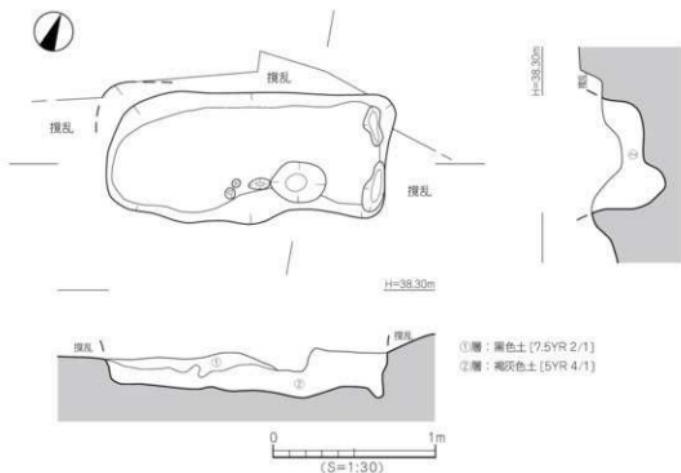
## SK102 (第35図、図版1・7)

SK102はI区中央部のC4区に位置し、SB101に切られる。平面形態は円形で、規模は長さ0.74m、深さ8~11cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、黒褐色土(10YR 3/1)単層である。土坑内から、出土遺物はない。

時期：埋土と古墳時代中期後半のSB101に先行することから、古墳時代中期後半以前とする。



第35図 SK102 測量図



第36図 SK103 測量図

## SK103 (第36図、図版1・7)

SK103はI区中央部のC3・4区に位置し、SB101を切る。遺構上部は、官舎解体時に削平を受けている。平面形態は長方形で、規模は長さ174m、幅0.79m、深さ23~38cmを測る。断面形態は筒状である。埋土は①層：黒色土(7.5YR 2/1)、②層：褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物は、土師器と弥生土器の小片がある。

時期：埋土とSB101より後出することから、古墳時代中期後半以降とする。

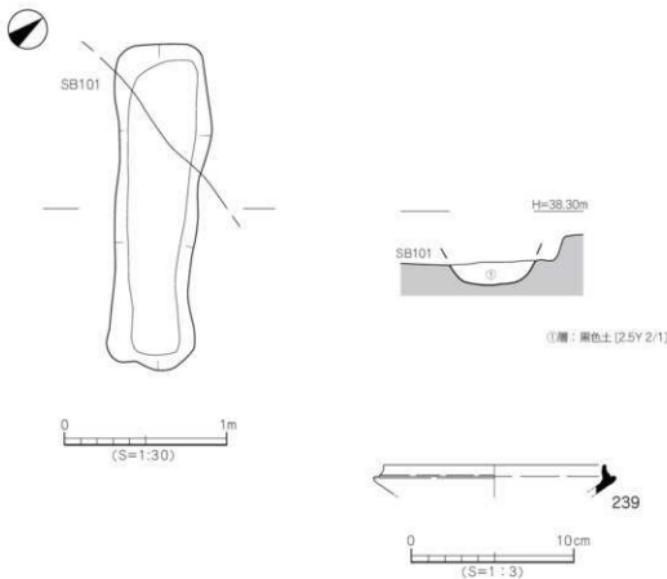
## SK104 (第37図、図版1・7)

SK104はI区中央東寄りのB3区に位置し、SB101、SD101に切られる。平面形態は長方形で、規模は長さ1.98m、幅0.56m、深さ69~74cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は、黒色土(2.5Y 2/1)単層である。出土遺物は、須恵器と弥生土器の小片がある。

出土遺物 (239)

239は須恵器の坏身。たちあがりは短く直立し、端部は尖り気味に丸い。受部は短く水平に伸び端部は丸い。

時期：埋土と古墳時代中期後半のSB101に先行することから、古墳時代中期後半以前とする。



第37図 SK104測量図・出土遺物実測図

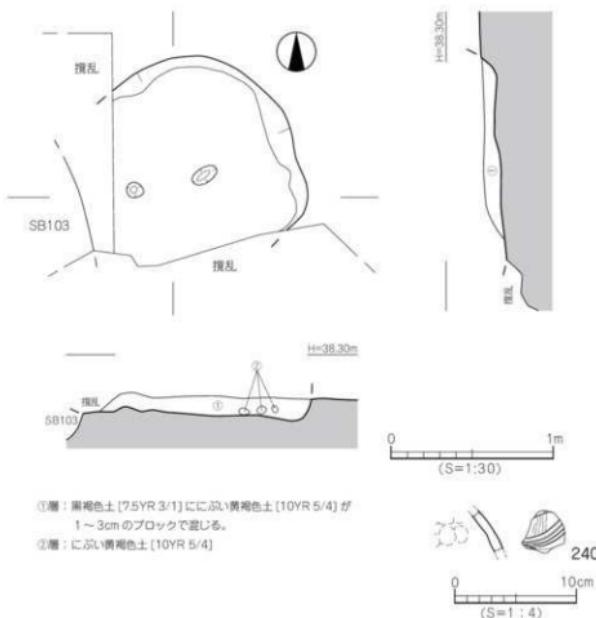
## SK105 (第38図、図版13)

SK105はI区中央西寄りのC5区に位置する。平面形態は円形で、規模は1.29m、深さ6~14cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、黒褐色土(7.5YR 3/1)ににぶい黄褐色土(10YR 5/4)が1~3cmのブロックで混じる。出土遺物は、弥生土器の小片がある。

## 出土遺物(240)

240は弥生時代前期の壺形土器の胴部片。外面に木葉文を施す。

時期：埋土から古墳時代とするが、明確ではない。



第38図 SK105測量図・出土遺物実測図

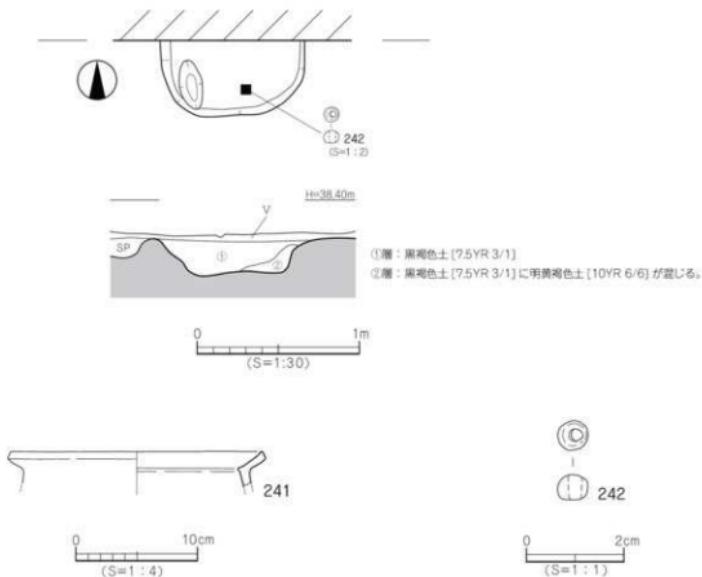
## SK106 (第4図)

SK106はI区中央北西寄りのA5区に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態は方形で、規模は検出長88cm、幅51cm、深さ12~24cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は①層：黒褐色土(7.5YR 3/1)、②層：黒褐色土(7.5YR 3/1)に明黄褐色土(10YR 6/6)混じりである。出土遺物は、弥生土器の小片、上面からガラス小玉1点がある。

## 出土遺物(241・242)

241は弥生土器の壺形土器。頭部内面がナデにより窪む。242はガラス小玉で、色調は青色である。

時期：埋土から古墳時代とするが、明確ではない。



第39図 SK106測量図・出土遺物実測図

## 4) 性格不明遺構 (SX)

性格不明遺構は、1基を検出した。

## SX101 (第40図、図版1・7)

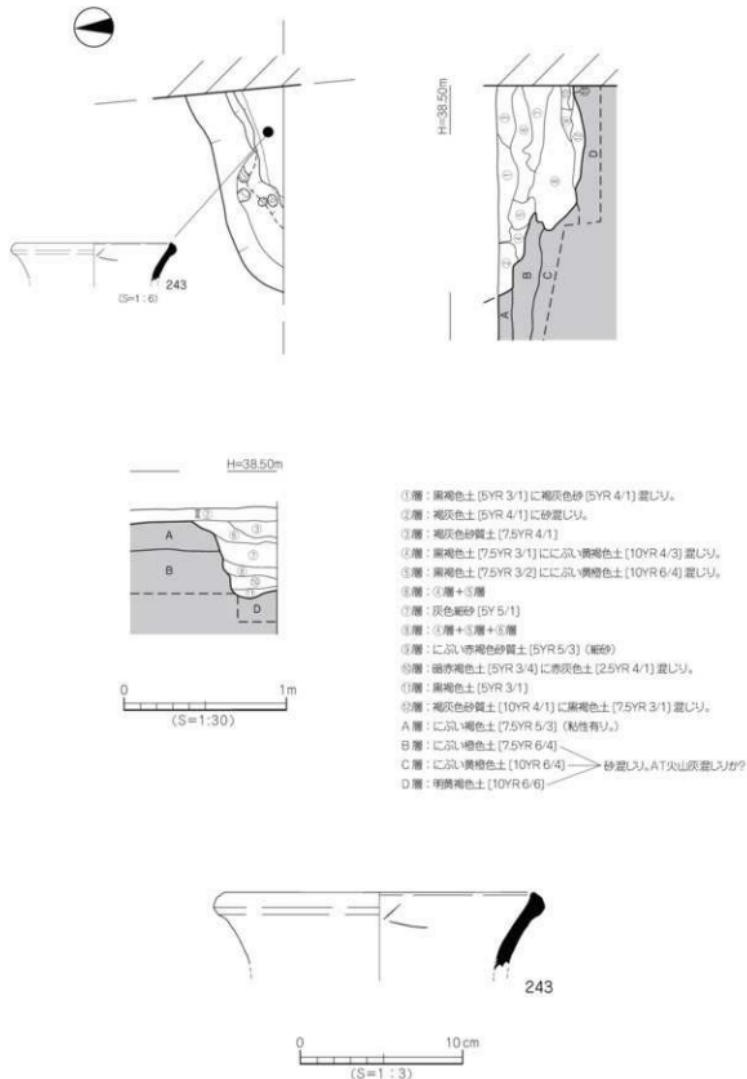
SX101はI区東部のC1区に位置し、南側は官舍解体時に削平され消滅している。東側は調査区外に続く。平面形態は不整形である。断面形態は舟底状の様相をなす。規模は検出長1.28m、幅0.61m、深さ1.08mを測る。埋土は12層に分層できる。  
 ①層：黒褐色土(5YR 3/1)に褐灰色砂(5YR 4/1)混じり。  
 ②層：褐灰色土(5YR 4/1)に砂混じり。  
 ③層：褐灰色砂質土(7.5YR 4/1)。  
 ④層：黒褐色土(7.5YR 3/1)にぶい黄褐色土(10YR 4/3)混じり。  
 ⑤層：黒褐色土(7.5YR 3/2)にぶい黄橙色土(10YR 6/4)混じり。  
 ⑥層：(④層+⑤層)の混合土。  
 ⑦層：灰色細砂(5Y 5/1)。  
 ⑧層：(④層+⑤層+⑥層)の混合土。  
 ⑨層：ぶい赤褐色砂質土(5YR 5/3)。細砂。  
 ⑩層：暗赤褐色土(5YR 3/4)に赤灰色土(2.5YR 4/1)混じり。  
 ⑪層：黒褐色土(5YR 3/1)。  
 ⑫層：褐灰色砂質土(10YR 4/1)に黒褐色土(7.5YR 3/1)混じりである。出土遺物は、須恵器と弥生土器の小片がある。断面の観察と埋土の状況から、流路の一部分か倒木痕と思われる。

## 出土遺物 (243)

243は須恵器の壺。口縁部内面にヘラ記号と思われる線刻有り。

時期：出土した須恵器の形態より、古墳時代後期後半とする。

調査の成果



第 40 図 SX101 測量図・出土遺物実測図

### 3. 古代

検出した遺構は、基本土層の第V層上面（第1面）で溝1条である。

#### 1) 溝（SD）

SD101（第41・42図、図版1・7・13）

SD101はI区のA2区からB6区に位置し、SB102・103、SD102、SK104を切り、東側は削平され消滅し、西側は調査区外に続く。規模は検出長2025m、幅0.44～1.04m、深さ2～8cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰褐色砂質土（7.5YR 4/2）である。出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器がある。

#### 出土遺物（244～255）

244・245は弥生土器の壺形土器。平底の底部片で黒斑有り。246～249は須恵器。246は高環の蓋のつまみ部。中央が僅かに突起。247は坏蓋。247の口縁端部は内傾する面を持ち尖り気味である。248は壺。外反する口縁部。249は高台付壺。高台は「ハ」の字状に開き接地する。250・251は土師器の壺。円盤高台。252は管状土錘。253は滑石製の白玉。254は石鎌。先端が欠損している。石材はサスカイト。255は剝片。石材はサスカイト。

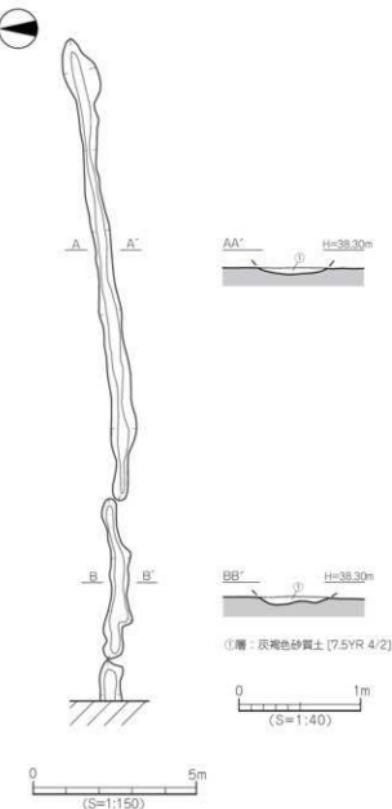
時期：出土した土師器と埋土から、古代、平安時代とする。

### 4. その他の遺物（第43～45図、図版13）

#### 1) 柱穴（SP）出土遺物（256～263）

SP108・113・120・121から出土した遺物を掲載する。

256～261は弥生土器。256は壺形土器の底部。くびれの上げ底。257は壺形土器の底部。258は高環形土器の口縁部。259は壺形土器の底部。260は壺形土器の口縁部。261は高環形土器の脚部。脚端部は拡張され端面に1条、裾部に3条の凹線文を巡らす。矢羽根透かしの痕跡が残る。262は須恵器の高環の脚部。長方形の透かしを施す。263は剝片。石材はサスカイト。



第41図 SD101測量図

## 2) 包含層出土遺物 (264 ~ 279)

264 ~ 274 は弥生土器。264 ~ 267 は壺形土器。264 の口縁端部は肥厚され窪む。265 は頸部に押圧された突帯文を 1 条巡らす。口縁端部に刻目を施す。266 は小さな平底。267 は平底。268 ~ 272 は壺形土器。268 は複合口縁壺。拡張部は内傾し、端部は先細りし丸い。269 の口縁部は上下に拡張し、両端部に刻目を施す。270 は頸部に 10 条の沈線文を巡らす。271 は外面に鶴状工具による 2 本の半円状の文様を施す。272 は平底。273 は高壺形土器の坏部。口縁部外面に 5 条の凹線文、口縁端面に 1 条の凹線文を巡らす。274 は高壺形土器の基部。275 は土師器の壺。口縁部中位に稜を持つ。276 は壺の把手部。扁平な舌状である。277・278 は須恵器の坏身。277 のたちあがり壺部は内傾する面を持



244



245

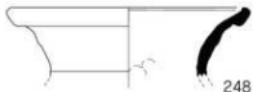
0  
(S=1:4)  
10cm



246



247



248



249



250



251

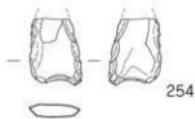
0  
(S=1:3)  
10cm



252



253



254



255

0  
(S=1:2)  
5cm

0  
(S=1:1)  
2cm

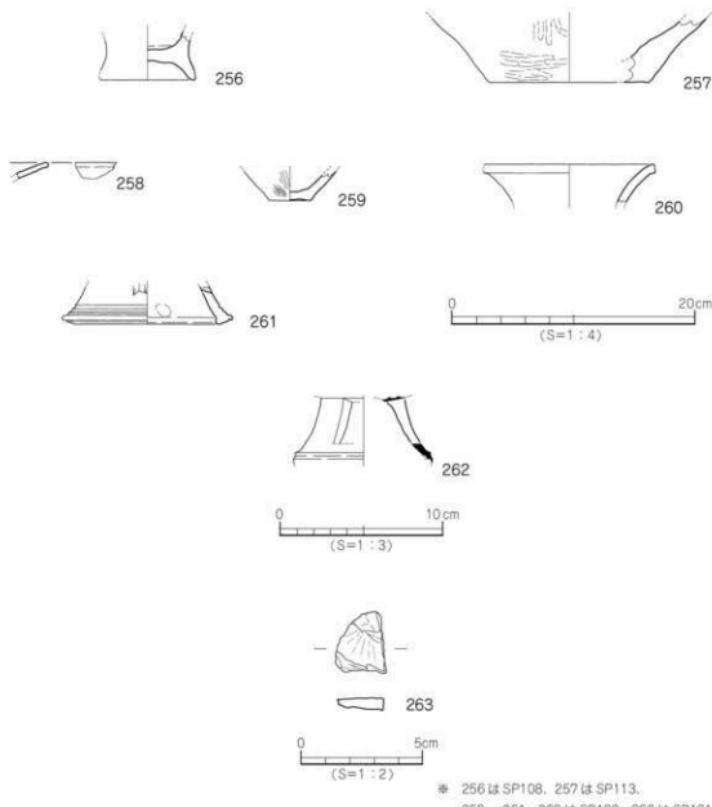
0  
(S=1:2)  
5cm

第 42 図 SD101 出土遺物実測図

ち窪む。受部は短く外上方に伸びる。278 の受部は短く水平に伸び、端部は尖り気味に丸い。279 はガラス小玉。色調は暗青灰色である。

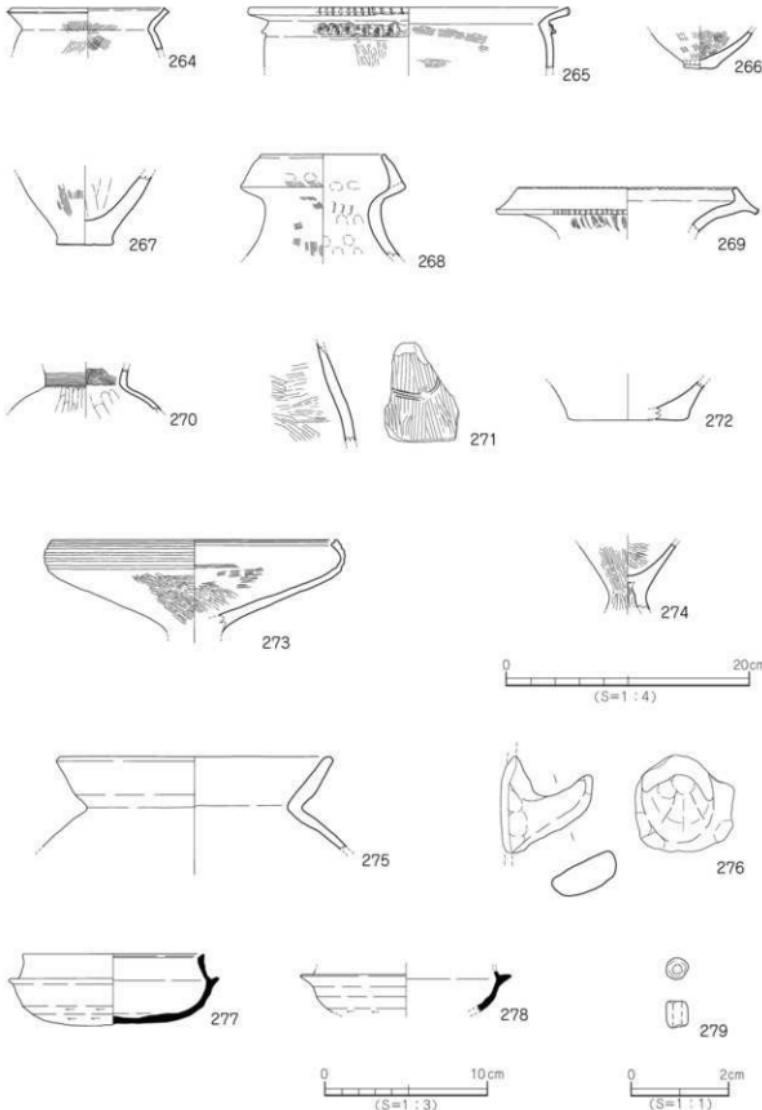
### 3) 出土地点不明遺物 (280 ~ 290)

主に搅乱土内からの出土である。280 は弥生土器。高坏形土器の基部。円孔が 2ヶ所に残る。281 ~ 284 は瓶の把手。281 は舌状で断面は丸みを持つ長方形状である。282 ~ 284 の断面は楕円形状である。285 ~ 290 は須恵器。285 は高坏の蓋で中央部が窪む。286・287 は坏蓋のつまみ部。286 は算盤玉状。287 は乳頭状。288 は坏身。たちあがり部は直立し、端面は内傾する面を持ち窪む。受部は短く水平に伸び端部は尖り気味で丸い。289 は高坏の坏部。段を持ち外反する口縁部。段下部に 2 本の窪む線を持ち、線間に波状文を巡らす。290 は平底の塊。

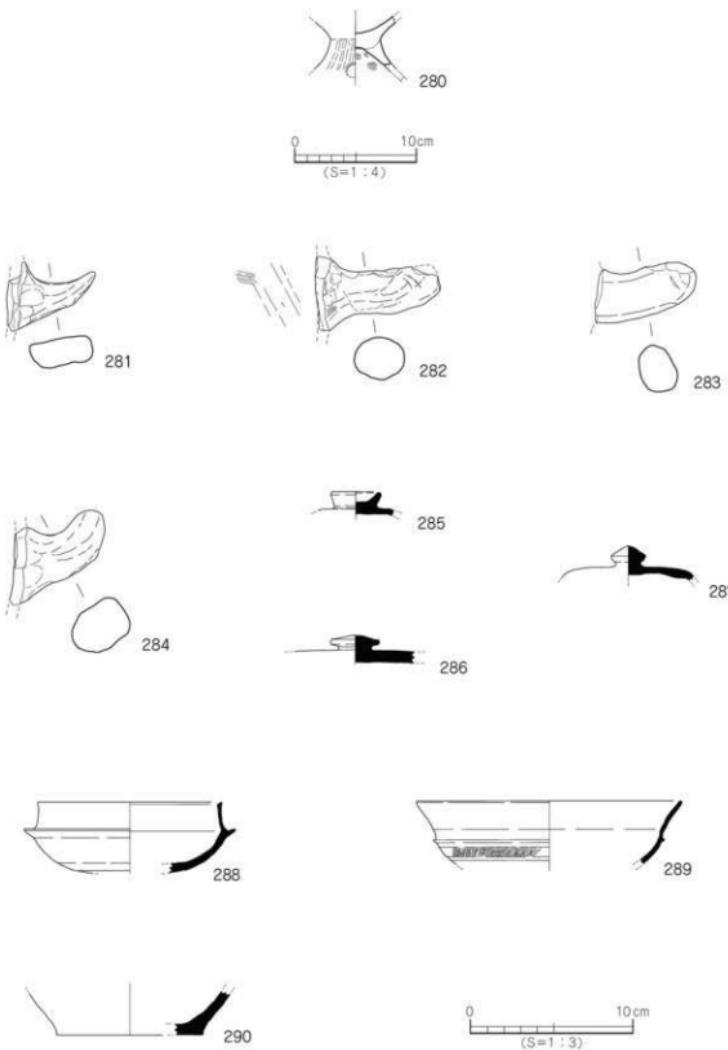


第 43 図 SP 出土遺物実測図

調査の成果



第 44 図 包含層出土遺物実測図



第45図 出土地点不明遺物実測図

## 第3章 まとめ

本調査では弥生時代後期、古墳時代、古代の遺物と遺構を検出した。検出した遺構では、弥生時代後期後半の竪穴建物3棟、古墳時代中期後半の竪穴建物1棟と溝1条が注目される。遺物では、弥生時代の台石と古墳時代中期の須恵器の小型壺、打ち欠き土器の高坏、石製の紡錘車が注目される。

遺構：弥生時代後期後半の竪穴建物SB102とSB103の2棟は、平面形態が円形で直径6mを超える大型建物であり、SB201は規模が263m以上の方形建物である。大型建物SB102は南東部にベッド状の高まりがあり、小ピットが周囲を廻る様相が見られることから、建物の入口の可能性が考えられる。SB103とSB201からは焼土痕と炭化物を検出したことにより、この2棟は焼失建物と思われる。特に、SB201からは多量の焼土塊と炭化物を建物西側から建物外の広範囲に検出したことにより、建物は火災を受け西側に倒壊したと考えられる。

遺物：弥生時代後期の竪穴建物SB102とSB103からは、現位置をとどめた状況の台石が出土した。台石は、調査区北側の道路建設工事に伴う調査から出土例がある。樽味四反地遺跡5次調査では、弥生時代中期末～後期初頭の竪穴建物1棟と古墳時代中期の竪穴建物3棟から台石が出土している。樽味立添3次調査では、弥生時代後期の竪穴建物1棟から出土している。また、樽味高木遺跡8次調査からは、弥生時代後期後半の竪穴建物と古墳時代の竪穴建物2棟、樽味高木遺跡11次調査からは、弥生時代後期の竪穴建物1棟と古墳時代の竪穴建物2棟から台石が出土しており、樽味地区からの出土例が増えている。

古墳時代中期後半の竪穴建物SB101からは、須恵器の小型壺と石製の紡錘車が出土した。紡錘車には同心円状の文様が施されている。この文様は、松山平野では松山市南江戸に所在する客谷古墳から出土した子持ち勾玉に施されており、今回の出土が2例目となり、貴重なものである。小型の須恵器壺の出土は、松山市内では出土例が多く大変貴重な資料である。この紡錘車と小型壺が出土した周辺からは焼土が広い範囲で検出していることから、建物内の祭祀行為の遺物として使用されたものと思われる。その他の出土遺物には須恵器の高坏があり、脚部の一部分を打ち欠き、脚部を上にした状態で出土した。この高坏の周辺からは焼土が検出されていることから、祭祀遺物として使用されたと思われる。調査区の北側に位置する樽味四反地遺跡11次調査からは、土器の一部を打ち欠いたり破碎したりする土器が出土している。近年、周辺の調査から打ち欠き土器と確認できる土器の出土例が多くなっている。

今回の調査からは、弥生時代後期後半の竪穴建物を検出したことより、集落が当初の想定された範囲より南西に広がることが確認できた。古墳時代の竪穴建物からは祭祀に関連する遺物が出土し、住居内の祭祀行為の様相を考える上で貴重な資料となるものである。また、古墳時代中期の溝SD102は集落または集落内を区画する溝と考えられ、周辺遺跡の古墳時代中期の集落に関連する遺構の再確認が必要である。

## 遺構一覧

### 遺構・遺物一覧　－凡例－

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各掲載について

法量欄　( )：推定復元値

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、密→精製土、雲→雲母、金→金雲母、赤→赤色酸化土粒。

( ) の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長(1~4)→「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

例) ○→良好、△→不良。

表1 積穴建物一覧

積穴 (SB)	地 区	平面形	規 模		内部施設	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
			長径×短径	深さ(m)					
101	B3~C4	方形	4.51 × (2.38) × 0.14 ~ 0.21		主柱穴 小ピット	黒褐色土	土師器 須恵器 石製品	古墳時代中期後半	SB102、SK102-104 を切り、SK101-103 に切られる。
102	A4~C5	円形	7.34 × (5.24) × 0.34		卯、高床部、 貼り床、柱穴、周壁溝	黒褐色土	土師器 須恵器 石製品 埴輪品	弥生時代後期後半	SB101、SD101、 102に切られる。
103	B6~C7	円形	6.21 × (2.52) × 0.14 ~ 0.20		柱穴 周壁溝	黒褐色土	弥生土器 石製品 埴土	弥生時代後期後半	SD101に切られる。
201	C15	方形	(2.63) × (0.98) × 0.18		周壁溝	黒色土	弥生土器 埴土	弥生時代後期後半	

表2 土坑一覧

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模		埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径	深さ(m)				
101	C3	円形	レンズ状	1.04 × 0.78 × 0.06 ~ 0.14		黒褐色土	弥生土器	古墳時代中期後半 以降	SB101を切り。
102	C4	円形	レンズ状	0.74 × 0.74 × 0.08 ~ 0.11		黒褐色土		古墳時代中期後半 以前	SB101に切られる。
103	C3・4	長方形	筒状	1.74 × 0.79 × 0.23 ~ 0.38		黒色土 褐灰色土	弥生土器 土師器	古墳時代中期後半 以降	SB101を切り。
104	B3	長方形	逆台形状	1.98 × 0.56 × 0.69 ~ 0.74		黒色土	弥生土器 須恵器	古墳時代中期後半 以前	SB101、SD101 に切られる。
105	C5	円形	レンズ状	1.29 × 1.29 × 0.06 ~ 0.14		黒褐色土 + ぶくら 黄褐色土	弥生土器	古墳時代	
106	A5	方形	逆台形状	0.88 × 0.51 × 0.12 ~ 0.24		黒褐色土・黒褐色土 + 明赤褐色土	弥生土器 ガラス小玉	古墳時代	

表3 溝一覧

溝 (SD)	地 区	方 向	断面形	規 模		埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長さ×幅	深さ(m)				
101	A2~B6	東~西	レンズ状	(20.25) × 0.44 ~ 1.04 × 0.2 ~ 0.8		灰褐色砂質土	弥生土器 須恵器 土師器	古代 平安時代	SB102・I03、 SD102、SK104 を切り。
102	A1~8	東~西	「U」字状	(35.04) × 0.56 ~ 0.81 × 0.32 ~ 0.54		黒褐色土・黒褐色土 + 明赤褐色土・明赤 褐色土	弥生土器 須恵器 石器	古墳時代中期後半 SD101に切られる。	SB102を切り、 SD101に切られる。

## 遺構一覧

表4 柱穴一覧

柱穴 (SP)	地 区	平面形	規 模		埋 土	出土遺物	備 考
			長さ(長径) × 幅(短径) × 深さ (m)				
1	B2	椭円	0.76×0.54×0.04		灰褐色土(5YR 4/2)	須恵器	
101	A1	円	0.14×0.14×0.04		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
102	B1	円	0.18×0.18×0.08		黒褐色土(5YR 3/1)		
103	A2	円	0.32×0.31×0.56	灰褐色土(5YR 4/2)に黒褐色土(5YR 2/1)が50%混じる。 黒褐色土(5YR 2/1)に灰褐色土(5YR 4/2)が5%混じる。		弥生土器	
104	A2	円	0.46×0.36×0.61	黒褐色土(7.5YR 2/1)に灰褐色土(5YR 4/2)が5%混じる。 灰褐色土(5YR 4/1)		弥生土器	
105	A2	椭円	0.51×0.31×0.56	黒褐色土(5YR 2/1)に灰褐色土(5YR 4/2)が5%混じる。			
106	A3	円	0.14×0.14×0.21		黒褐色土(5YR 3/1)		
107	A3	椭円	0.51×0.43×0.34	灰褐色土(5YR 4/2)に黒褐色土(5YR 2/1)が50%混じる。 黒褐色土(5YR 2/1)に灰褐色土(5YR 4/2)が5%混じる。 黒褐色土(7.5YR 2/1)に灰褐色土(5YR 4/2)が5%混じる。		弥生土器	
108	A3・4	椭円	0.51×0.34×0.47		黒褐色土(5YR 4/1)	弥生土器	
109	A5	円	0.31×(0.14)×0.07		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
110	A5	円	0.34×0.31×0.18		黒褐色土(5YR 3/1)		
111	A5	椭円	0.47×0.21×0.07		黒褐色土(5YR 3/1)		
112	A6	椭円	0.31×0.18×0.14		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
113	A6		(0.24)×(0.11)×0.31		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
114	A6	円	0.31×0.24×0.64		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
115	C2	円	0.28×0.24×0.24		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
116	B3	円	0.28×0.27×0.24		黒褐色土(5YR 3/1)		
117	B3	円	0.31×0.24×0.29		黒褐色土(5YR 3/1)		
118	C3		(0.26)×(0.14)×0.29		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
119	A6	円	0.27×0.24×0.27		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
120	C8	椭円	0.74×0.53×0.43		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
121	A4	円	0.29×0.26×0.38		褐灰色土(7.5YR 4/1)	須恵器 SB02E を切る。	
122	A5	円	0.29×0.26×0.14		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
123	A5	円	0.29×0.27×0.11		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
124	A5	円	0.24×0.21×0.18		黒褐色土(5YR 3/1)	弥生土器	
125	B7	壁面検出	0.28×—×0.14		黒褐色土(5YR 3/1)		
126	A5	壁面検出	0.44×—×0.08		黒褐色土(7.5YR 3/1)		
127	A5	壁面検出	0.41×—×0.24		黒褐色土(5YR 3/1)		
128	A6	壁面検出	(0.14)×—×0.28		黒褐色土(5YR 3/1)		
129	A8	壁面検出	0.34×—×0.18		黒褐色土(5YR 3/1)		

表5 性格不明遺構一覧

性格不明 (S X)	地 区	平面形	断面形	規 模		埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長さ(長径) × 幅(短径) × 深さ (m)					
101	C1	不整形	舟底状	(1.28) × (0.61) × 1.08		黒褐色土 はか12層	弥生土器 須恵器	古墳時代 後期後半	

## 遺物観察表

表6 SB102 出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外側) (内面)	胎 土 焼 成	備考	団版
				外面	内面				
1	甕	口径(200) 残高 26	口縁部片、口縁端面に2条の凹線文、頭部内面に1条の沈線文を施す。	ハケ ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長(較) 密 ○		
2	甕	口径(252) 残高 26	短く水平気味に伸びる口縁部。口縁端面に1条の凹線文、頭部内面に1条の凹線文を施す。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○		
3	甕	口径(161) 残高 66	短く外上方に伸びる口縁部。口縁端部は肥厚される。	ヨコナデ ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
4	甕	口径(150) 残高 38	外上方に短く伸びる口縁部。	ナデ	ハケ→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
5	甕	口径(212) 残高 60	短く外上方に伸びる口縁部。口縁端部は「コ」字状に丸い。	ナデ ミガキ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) 金 ○		
6	甕	口径(206) 残高 19	外上方に伸びる口縁部。口縁端部は「コ」字状に丸い。	ハケ→ヨコナ デ(10本/cm)	ハケ(7~8本/ cm)	橙色 橙色	石・長(1~2) 金 ○		
7	甕	口径(197) 残高 72	外上方に伸びる口縁部。	ナデ ミガキ	ケズリ→ナデ ミガキ	灰褐色 灰褐色	石・長(1) ○		
8	甕	口径(194) 残高 36	外反し短く伸びる口縁部。口縁端部は面を持つ。	ナデ	ミガキ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
9	甕	口径(138) 残高 68	僅かに外反する口縁部。口縁端部は丸い。	ハケ→ナデ ミガキ	ナデ	橙色 黄灰色	石・長(1~2) ○		
10	甕	口径(98) 残高 68	僅かに外傾する短い口縁部。口縁端部は丸い。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい橙色 褐灰色	石・長(1~2) ○		
11	甕	口径(112) 残高 132	外反する口縁部。口縁端部は「コ」字状。	ハケ(5本/cm)	ハケ(6本/cm)	橙色 橙色	石・長(1) 赤 ○	8	
12	甕	残高 41	短く口縁端部に刻目を施す。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1) ○		
13	甕	残高 34	短く外上方に伸びる口縁部。口縁端部は丸い。	ミガキ	ミガキ	褐色 褐灰色	石・長(1) ○		
14	甕	残高 36	口縁端部は「コ」字状である。頭部外側に布目の圧痕がある。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) ○		
15	甕	器高 46	口縁端部は「コ」字状である。	マメフ	マメフ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
16	甕	残高 34	口縁端部に刻目を施す。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
17	甕	残高 29	口縁部片。口縁端面は強い凹コナデによりやや座む。	ヨコナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ○		
18	甕	底径 76 残高 44	くびれの上げ底。	ミガキ ナデ	ナデ	橙色 灰黄色	石・長(1~3) ○		
19	甕	底径(64) 器高 51	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 黒色	石・長(1~2) ○		
20	甕	底径(58) 残高 26	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ	明赤褐色 褐灰色	石・長(1~2) ○	黒斑	

表6 SB102出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼	備考	図版
				外面	内面				
21	甕	底径 残高 (5.2) 3.5	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 赤灰色	石・長(1~3) ○		
22	甕	底径 器高 4.7 7.0	くびれの上げ底で、たちあがりをもつ 底部。	ハケ(7~8本/cm) ナデ	ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○	黒謙	
23	甕	底径 残高 (3.6) 3.3	平底の底部。	ナデ	ハケ ナデ	橙色 橙色	石・長(1~5) ○	黒謙	
24	甕	底径 残高 (4.0) 5.3	たちあがりをもつ平底。	ナデ	ナデ(工具)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		
25	甕	底径 残高 6.1 9.0	肥厚された平底の底部。中央部が僅 かに窪む。	ハケ(7本/cm) ミガキ	ナデ ミガキ	橙色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○	黒謙 8	
26	甕	底径 残高 (5.6) 4.6	たちあがりをもつ平底の底部。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい橙色	石・長(1~3) ○		
27	甕	底径 器高 3.8 3.8	たちあがりをもつ小さな底部。底部外 面にヘラ記号。	ハケ(5本/cm) →ナデ	ハケ	橙色 橙色	石・長(1) 赤 ○		8
28	甕	底径 残高 (5.5) 4.2	僅かに窪む底部。	ハケ(6~7本/cm)	ハケ(8本/cm)	鈍灰色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) 金 ○		
29	甕	底径 残高 (6.6) 4.0	丸みをもつ平底。	ハケ	ハケ(6本/cm)	灰褐色 灰褐色	石・長(1~4) 金 ○		
30	甕	底径 残高 (7.5) 10.4	たちあがりをもつ平底の底部。	ハケ→ナデ ミガキ	ハケ→ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) 金 ○		
31	甕	底径 残高 (6.8) 2.9	僅かに窪む底部。	ナデ	ナデ	浅黄色 にぶい褐色	石・長(1) 金 ○		
32	甕	底径 残高 3.4 7.0	たちあがりをもつ小さな底部。	ミガキ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) 金 ○	黒謙	
33	甕	底径 残高 4.4 10.0	僅かに上げ底の底部に、たちあがりを もつ。	ハケ(8本/cm) ナデ	ハケ(10本/cm)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○	黒謙	
34	甕	底径 残高 (3.8) 5.0	僅かに窪む底部。	ミガキ	ミガキ	明褐色 明褐色	石・長(1~2) 金 ○		
35	甕	底径 残高 3.5 6.0	突出した丸みを持つ小さな底部。たち あがりをもつ。	ハケ(6本/cm)	ケズリ	橙色 にぶい黄褐色	石・長(1) 金、赤 ○	黒謙	
36	甕	底径 器高 3.5 8.1	僅かに上げ底の底部にたちあがりを もつ。	ハケ(8本/cm) ナデ	ケズリ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ○		
37	甕	底径 器高 (4.2) 5.3	丸みを持つ小さな底部。	ハケ(5本/cm)	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) 金、赤 ○		
38	甕	底径 残高 (4.8) 3.0	平底の底部中央が僅かに窪む。	ハケ→ナデ	ハケ(4本/cm)	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
39	甕	底径 残高 (3.4) 5.7	僅かに窪む小さな底部。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい橙色 橙色	石・長(1~2) ○	黒謙	
40	壺	底径 残高 (2.2) 2.1	僅かに窪む小さな底部。	ミガキ	ナデ	黑色 橙色	石・長(1) ○	黒謙	

表6 SB102出土遺物観察表(土製品)

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 燒 土 成	備考	図版
				外面	内面				
41	甕	底径 残高 23 55	たちあがりをもつ小さな底部。	ハケ(12本/cm)	ハケ(7本/cm)	明赤褐色 明赤褐色	石・長(粒) ○	黒斑	
42	甕	底径 器高 39.43 32	小さな平底。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	橙色 にぶい黄橙色	長(1) 密 ○	黒斑	
43	甕	底径 残高 30 30	小さな平底。	ハケ(6本/cm) ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○	黒斑	
44	甕	底径 残高 25 28	丸みを持つ小さな底部。	ハケ	ハケ	黒褐色 黒褐色	石・長(1~5) ○		
45	甕	底径 残高 32 61	丸みを持つ小さな底部。	ハケ(4本/cm) ナデ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1~2) ○	鉄出上	
46	甕	底径 残高 (60) 38	平底。	ハケ→ナデ	回転ナデ	にぶい褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○		
47	甕	底径 残高 41 9.5	丸みを持つ小さな平底。たちあがり をもつ。	ハケ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
48	甕	底径 残高 (64) 35	僅かに窪む底部。内面に工具痕。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		
49	甕	底径 残高 (84) 90	僅かに丸みを持つ底部。	ナデ	ハケ(5本/cm) →ナデ	にぶい褐色 黒褐色	石・長(1~3) ○		
50	甕	残高 17.2	胴部片。	ナデ(工具)	ハケ(7本/cm) →ナデ	にぶい褐色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) ○		
51	壺	口径 残高 (138) 180	口縁部は外傾し、口縁端部は「コ」字状 に丸い。	ハケ(14本/cm)	ナデ ハケ(14本/cm)	橙色 黒褐色	石・長(1~2)金 ○	黒斑	
52	壺	口径 残高 (158) 59	外反する口縁部。	マツフ	マツフ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
53	壺	口径 残高 (144) 39	外反する口縁部。口縁端部は「コ」字状 に丸い。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2)赤 ○		
54	壺	口径 残高 (128) 8.9	長頸壺。外面に7条と10条の脚模沈線 文を施す。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) 赤 ○	鉄出上	
55	壺	口径 器高 (112) 52	直口口縁壺。	ミガキ	ハケ(7本/cm) →ナデ	灰褐色 橙色	石・長(1~2) ○		
56	壺	口径 残高 (84) 4.9	僅かに外傾する口縁部。	ハケ ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ○		
57	壺	口径 残高 (72) 24	沈線文16条。	ミガキ	ヨコナデ	灰褐色 灰褐色	密 ○		
58	壺	口径 残高 (260) 23	口縁部。口縁端面はナデにより窪 む。	ヨコナデ	ハクリ	橙色 橙色	石・長(1~4) ○		
59	壺	口径 残高 (136) 22	凹線文3条。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		
60	壺	口径 残高 (100) 25	口縁部を上下に拉張し、凹線文を3 条施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		

## 遺物観察表

表6 SB102出土遺物観察表（土製品）

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
61	壺	口径(16.0) 残高 2.6	2条の凹線文。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
62	壺	口径(16.4) 残高 3.0	口縁端面に凹線文2条を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ○		
63	壺	口径(20.0) 残高 1.5	口縁端部に刻目を施す。	ハケ(8本/cm) ヨコナデ	ハケ(8本/cm) ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~4) ○		
64	壺	口径(17.2) 残高 3.1	口縁部・口縁端部は上下に拡張される。	ハケ(6本/cm)	ヨコナデ	橙色 橙色	白色粒 密 ○		
65	壺	口部(13.0) 残高 2.8	複合口縁壺の口縁部片。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
66	器台	口径(34.5) 器高 3.7	口縁端面に凹線文4条と円形浮文を施す。	ヨコナデ →ミガキ	ヨコナデ	灰黄褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○		
67	壺	口径(9.2) 残高 5.5	複合口縁壺。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
68	壺	口径(8.8) 残高 7.8	長瓶壺。口縁部は直立し、口縁端部は尖り気味に丸い。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○	鉢内面上	
69	壺	口径(8.0) 残高 7.3	無頸壺。口縁外面に沈線文8条を施す。	ミガキ	ナデ	橙色 橙色	密 ○		
70	壺	残高 3.1	複合口縁壺。口縁外面に波状文。	ナデ	ハケ(7本/cm)	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
71	壺	残高 6.1	頭部に彫刻工具による沈線文を4条施す。	ハケ(5本/cm)	ナデ 一部ハケ(10本/cm)	橙色 灰黄褐色	石・長(1~3) ○		
72	壺	残高 3.2	沈線文16条。	ミガキ	ナデ	灰褐色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
73	壺	残高 10.7	肩の張らない胴部。	ハケ→ミガキ	しほり直 ケヅリ ナデ	明赤褐色 橙色	石・長(1~2) ○		
74	壺	残高 9.7	肩の張らない胴部。頭部はナデにより僅かに窪む。	ナデ ミガキ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 金 ○		
75	壺	残高 4.8	頭部に刻目を持つ突唇文を貼り付けた。	ナデ	ナデ ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 金 ○	黒底	
76	壺	残高 4.0	胴部片。外面に円形のスタンプ文を施す。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○	8	
77	壺	残高 2.6	胴部片。外面に円形のスタンプ文を施す。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○	8	
78	壺	残高 7.9	胴部片。飾模波状文を施す。	ハケ→ミガキ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○	8	
79	壺	残高 2.7	胴部片。外面にヘラによる線刻有り。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
80	壺	残高 3.6	胴部片。外面に線刻2本を施す。	ナデ	ナデ	橙色 暗灰色	石・長(1~3) ○	鉢内面上	

## 遺物観察表

表6 SB102出土遺物観察表（土製品）

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外面	内面					
81	壺	底径 30 残高 104	丸い胴部に丸みを持つ小さな底部、外 面にヘラ工具による直線文。	ハケ ミガキ	ナデ	褐色 にぶい橙色	石・長(1) ○	赤	黒斑	8
82	壺	底径 (26) 残高 30	丸みをもつ小さな底部。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	褐色	SB102上 黒斑	
83	壺	底径 (4.0) 残高 36	平底の底部。	ミガキ ハケ→ナデ	ケズリ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○	密金		
84	壺	底径 (9.6) 器高 29	僅かに上げ底の底部。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	長(1)	密金		
85	甕	底径 (9.4) 残高 4.9	厚みのある平底。	ナデ	マメツ	褐色 褐色	石・長(1~5) ○		黒斑	
86	甕	底径 (3.6) 残高 27	小さな平底。	ハケ(9本/cm) ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~8)金 ○			
87	壺	底径 (7.0) 残高 59	たちあがりをもつ底部。	ナデ ミガキ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○	赤		
88	壺	底径 (7.2) 器高 60	厚みのある底部、外側にヘラ記号あり。	ミガキ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2)			
89	甕	底径 (4.2) 残高 29	底部外側に「×」のヘラ記号あり。	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~5) ○		8	
90	壺	底径 (6.0) 残高 196	たちあがりをもつ厚みのある底部。	ミガキ	ハケ(5~6本/cm) ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○	褐色	SB102上 SP3	
91	鉢	口径 (35.6) 残高 245	短く外反する口縁部。口縁端部は「コ」 字状である。	ハケ(5~6本/cm) ハケ(4~5本/cm)	ハケ(4~5本/cm) →ナデ	褐色 にぶい褐色	白色粒(1~4) ○			9
92	鉢	口径 (36.4) 残高 248	大型鉢。短く外反する口縁部。口縁端 部は「コ」字状である。	ハケ(5~6本/cm)	ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2)赤 ○	褐色	SB102上 器の端部 部分	
93	鉢	口径 (28.6) 残高 94	短く外反する口縁部。口縁端部は「コ」 字状である。	ハケ(7本/cm) →ナデ	ハケ(7本/cm) →ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○			
94	鉢	口径 (20.3) 残高 56	短く外反する口縁部。口縁端部は「コ」 字状に丸い。	ハケ(7本/cm) ミガキ	ハケ ミガキ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○			
95	鉢	口径 (22.2) 残高 7.6	短く外反する口縁部。口縁端部は「コ」 字状である。	ハケ(5本/cm) →ミガキ	ハケ ナデ ミガキ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○			
96	鉢	口径 (14.6) 残高 67	短く外反する口縁部。口縁端部は「コ」 字状に丸い。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○			
97	鉢	口径 (14.2) 底径 20 器高 84	直口口縁。口縁端部は面を持ち、底 部は小さい平底。	ミガキ ナデ	ミガキ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○		SB102上 黒斑	9
98	鉢	口径 (21.8) 残高 5.5	直口口縁。口縁端部はナデにより面 を持つ。	ハケ ナデ	ハケ→ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○			
99	鉢	口径 (12.0) 残高 72	直立気味の胴部から口縁部。口縁端部 は尖り気味である。	ハケ(8本/cm) ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2)赤 ○		黒斑	
100	鉢	口径 (10.0) 残高 44	直立気味の胴部から口縁部。口縁端部 は尖り気味である。	ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○			

## 遺物観察表

表6 SB102出土遺物観察表（土製品）

(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼	備考	図版
				外面	内面				
101	鉢	口径 (12.0) 残高 5.5	直立気味の胴部から口縁部。口縁端部は丸い。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
102	鉢	口径 (10.2) 残高 6.3	直立気味の口縁部。口縁端部はナデによる内傾する面を持つ。	ハケ(8本/cm) ナデ	ハケ→ナデ	黒色 にぶい黄色	石・長(1) 金 ○		
103	鉢	口径 (15.8) 残高 4.9	直立気味の口縁部。口縁端部は丸い。	ハケ(8本/cm) ナデ	ハケ(8本/cm) ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
104	鉢	口径 (15.0) 残高 4.0	外傾する直口口縁。口縁端部は丸い。	ハケ(6本/cm)	ハケ→ナデ	橙色 橙色	石・長(1) 金 ○		
105	鉢	口径 (12.0) 器高 6.9	外傾する直口口縁。口縁端部は丸い。	ナデ ミガキ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 密 ○		
106	鉢	口径 (12.4) 残高 4.4	内傾する口縁部。口縁端部は丸く、外面に1条の沈綴文が認る。	ナデ ミガキ	ナデ ケズリ	にぶい橙色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○		
107	鉢	残高 5.3	直口口縁。口縁端部は丸い。	ナデ ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 橙色	石・長(1) ○	鉄網上 黒漆	
108	鉢	底径 (2.4) 器高 5.8	丸みを持つ小さな底部に、内溝するた ちあがりをもつ。	ハケ→ミガキ	ケズリ ナデ	明赤褐色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) ○		
109	鉢	底径 6.0 残高 6.5	くびれの上げ底。たちあがりをもつ。	ナデ	ナデ	灰褐色 灰褐色・赤褐色	石・長(1~4) ○		
110	鉢	底径 5.2 残高 6.0	たちあがりをもつ底部。	ハケ(7本/cm) ナデ	ナデ(工具)	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~2) ○	黒漆	
111	鉢	底径 3.8 残高 2.0	小さく突出する平底。	ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
112	鉢	底径 (17.0) 残高 3.2	大きく「ハ」の字形に開く脚部。円 孔を4ヶ所に施す。	ミガキ	ハケ(6本/cm)	灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) ○		9
113	高坏	口径 (16.8) 残高 4.4	環部。口縁部は内傾し、口縁端部は外 傾する面を持つ。	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ○		
114	高坏	口径 (22.0) 残高 6.1	口縁端面に1条、口縁部外側に3条の凹 継文を施す。	ハケ5~6本/cm ナデ	ハケ5~6本/cm +ミガキ	橙色 橙色	石・長(粒) ○		
115	高坏	口径 (24.0) 残高 4.7	段を持ち大きく外反する口縁部。口縁 端部は丸い。	ミガキ	ミガキ ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2)赤 ○		
116	高坏	口径 (21.8) 器高 3.0	段を持ち外反する口縁部。口縁端部は丸い。	ハケ ミガキ	ハケ ミガキ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○		
117	高坏	口径 (21.8) 残高 2.2	段を持ち大きく外反する口縁部。口縁 端部は丸い。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2)赤 ○		
118	高坏	残高 7.4	段を持つ环部。	ナデ ハケ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 金 ○		
119	高坏	残高 4.2	柱部。	ハケ(6本/cm) ナデ	しほり痕	にぶい黄橙色 橙色	石・長(1~2)金 ○	黒漆	
120	高坏	残高 4.2	基部に沈綴文6条が残る。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 明黄褐色	石・長(1~3) ○		

表6 SB102出土遺物観察表(土製品)

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼	備考	図版
				外面	内面				
121	高坏	底径(186) 残高 26	大きく「ハ」の字状に開く脚部。	ハケ ミガキ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○	黒隕	
122	高坏	底径(203) 残高 32	大きく「ハ」の字状に開く脚部。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 赤 ○		
123	高坏	残高 24	段をもち開く脚部。段の上下に半裁竹管文を施す。円孔有り。	ミガキ	ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○		
124	高坏	残高 21	脚端部手前に半裁竹管文を2段に施す。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○		
125	器台	口径(220) 残高 21	口縁端部は上下に膨張され、端面に3条の凹線文と端部に刻目を施す。	ヨコナデ	ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
126	器台	口径(200) 残高 11	水平に伸びる口縁部。口縁端部に刻目を施す。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○		
127	支脚	底径 8.0 器高 66	ほぼ完形品。中空で突起が付く。	ナデ 指痕痕	ハケ(8本/cm) しづき痕	にぶい黄橙色 褐色	石・長(1~2) ○	9	
128	裏	残高 22	軟質土器の刷毛部。外面に格子タタキが残る。	タタキ	ナデ	褐色 にぶい赤褐色	石(粒) ○		

表7 SB102出土遺物観察表(石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
129	石鏡	一部欠損		4.0	1.6	0.6	4.105		9
130	石鏡	ほぼ完形		3.2	1.7	0.5	2.349		9
131	石鏡	ほぼ完形		1.7	1.2	0.25	0.529		9
132	石庖丁	一部欠損	綠色片岩	8.0	4.2	0.5	29.685		10
133	石庖丁	完形	安山岩系	8.1	4.9	1.1	59.488		10
134	砥石		粘板岩	10.8	5.1	1.2	81.684		
135	砥石		石英粗面岩	11.9	8.6	3.5	540		10
136	砥石		石英粗面岩	6.8	4.7	3.0	132.776		
137	砥石	欠損	石英粗面岩	10.9	8.6	5.5	840		10
138	砥石		粘板岩	4.5	1.2	0.5	4.038		
139	敲石	完形	花崗岩	10.25	5.85	3.2	300		
140	敲石	完形		12.3	9.3	4.8	800		
141	台石	完形		14.4	12.9	5.85	2.760		
142	台石	完形		36.6	20.2	8.5	10.450		10
143	剥片		赤色珪質岩 (鍛入石材)	2.3	2.2	0.4	2.554		
144	剥片			2.3	1.3	0.2	0.610		

## 遺物観察表

表 8 SB102 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
145	馬頭式平根旗	先端欠損	鉄	1.8	1.7	0.4	1503	10
146	盤	先端部と基部を欠く	鉄	6.6	1.3	0.8	15472	10
147	鉢	先端と基部	鉄	9.0	1.6	0.4	9476	10
148	鉢	基部	鉄	4.1	1.4	0.3	4263	10
149	方形鉄片		鉄	3.4	3.4	1.3	25301	
150	塊形洋		鉄	1.8	2.8	1.4	6559	
151	不明		鉄	3.5	0.77	0.45	2432	10
152	不明	小片	鉄	2.6	1.2	0.3	1442	10

表 9 SB103 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
153	甕	口径(17.0) 残高 15.2	短く外上方に伸びる口縁端面は窪む。	ハケ(6本/cm)	ケズリ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1~3)赤 ○		
154	甕	口径(14.8) 残高 9.6	外上方に伸びる口縁部。	ハケ(6本/cm)	ハケ(6本/cm) ナデ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1~2) ○		
155	甕	口径(19.0) 残高 4.0	短く外上方に伸びる口縁部。口縁端面 は窪む。	ナデ	ナデ	にぶい・橙色 にぶい・黄褐色	石・長(1~5) ○		
156	甕	残高 13.0	胴部片。	ハケ(5本/cm)	ナデ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1~2) ○		
157	甕	底径 8.4 残高 7.1	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1~2) ○		11
158	甕	底径 3.4 残高 4.0	小さな平底。	ハケ→ナデ	ナデ(工具)	明赤褐色 黒色	石・長(粒) ○		
159	壺	口径(13.8) 残高 9.7	胴部外縫に径1.5cmの竹管文。	ハケ(5本/cm) ナデ	ハケ→ナデ	橙色 橙色	石・長(1~5) ○		11
160	壺	口径(12.8) 残高 4.9	短く外上方に伸びる口縁部。口縁端面 は窪む。	ハケ ナデ	ハケ→ナデ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1~2) ○		
161	壺	口径(11.4) 残高 7.0	直立気味に外反する口縁部。口縁端部 は「コ」字状である。	ハケ→ナデ	ハケ(6本/cm)	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
162	壺	残高 8.2	長頸壺。頸部に斜格子状の刻目を持つ 突帯文を1条貼り付ける。	ハケ→ナデ	ハケ ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
163	甕	底径(6.0) 残高 3.6	内縫に轉疣痕。	ナデ	ナデ	黒褐色 黒褐色	石・長(1~2) ○		
164	甕	残高 5.2	外縫に工具による刻目。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
165	鉢	口径(10.2) 底径 7.7 器高 (2.8)	直立する口縁部。口縁端部は丸みを持 つ。	ナデ	ナデ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1) ○		

## 遺物観察表

表 9 SB103 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外側) (内面)	胎 焼 成	備考	図版
				外面	内面				
166	鉢	底径 (30) 残高 7.4	僅かに上げ底の小さな底部。肩部は直立気味に立ち上がる。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
167	ミニ チュア	底径 2.0 器高 5.8	手捏ね土器。	ナデ	指頭痕	橙色 橙色	石・長(1~2) 金 ○	11	
168	高環	残高 3.6	外反する口縁部。	ハケ→ミガキ	ミガキ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1) ○		
169	高環	残高 2.3	脚部。	ミガキ	ナデ	赤褐色 赤褐色	石・長(1) ○		

表 10 SB103 出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
170	剥片			1.6	2.8	0.4	3.018		
171	台石	完形	石英粗面岩	39.5	29.6	10.0	17.700		11

表 11 SB201 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外側) (内面)	胎 焼 成	備考	図版
				外面	内面				
172	壺	口径 (168) 残高 5.3	短く外上方に伸びる口縁部。	ナデ ミガキ	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○		
173	壺	残高 13.0	肩部片。	ハケ	ハケ(5本/cm) ケズリ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~3) ○	外面に 焼付帯	
174	壺	底径 2.5 残高 3.6	小さな平底の底部。中央に直線状の沈線。	ハケ(13本/cm)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
175	壺	口径 (144) 残高 3.3	口縁端部は上下に拡張され、口縁端面に3条の凹縦文を施す。	ナデ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		
176	壺	口径 (17.0) 残高 2.7	外反する口縁部。	ハケ(4本/cm)	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		
177	鉢	口径 (13.0) 底径 (25) 器高 6.2	直口口縁。口縁端部は外傾する面を持つ。小さな平底。	タタキ→ナデ	ハケ(7本/cm)	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1) ○	黒斑	12
178	器台	残高 1.8	口縁端部は上下に拡張され、端面には波状文を施す。	ナデ	ナデ ミガキ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		

表 12 SB101 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外側) (内面)	胎 焼 成	備考	図版
				外面	内面				
179	环身	口径 (11.4) 器高 4.3	たちあがりは直立し、端面は窪む。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ○		
180	高環	口径 9.7 底径 7.6 残高 9.0	直立するたちあがり。端部内面は沈線状に窪む。3方向の透かし。肩部の一部が打ち欠かれている。	回転ナデ カキ目 (5本/cm)	回転ナデ	灰色 灰色	直 ○		12
181	高環	底径 (11.0) 残高 5.7	脚部は下方に屈曲する。長方形の透かしを3方向に施す。	回転ナデ カキ目	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(粒) ○		

## 遺物観察表

表 12 SB101 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
182	高杯	残高 32	受部は水平気味に短く伸び、端部は尖り気味に丸い。3方向に透かい。	回転ハラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
183	小型壺	口径 6.0 器高 4.1	定形品。扁平な胴部。口縁部は尖り気味に丸い。内面にオリーブ灰色の自然釉。	回転ナデ ハラケズリ →ナデ	回転ナデ	灰色 黄灰色	長(1~2) ○		12
184	甕	口径 19.0 器高 32.6	復元完形品。丸底の底盤。胴部中位で最大径を測る。	ナデ ハケ(4本/cm) →ナデ	ナデ ハケ(4本/cm) →ナデ	褐灰色 にぶい黄褐色	石・長(1~4)雲 ○	黒底	12
185	甕	口径 (28.8) 残高 4.2	直口口縁。口縁端部は内側する面を持つ。	ハケ ナデ	ハケ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○		
186	甕	残高 7.3	直口口縁。口縁端部は内側する面を持つ。	ハケ ナデ	ハケ(4~5本/cm) →ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	金	
187	瓶	残高 6.4	直口口縁。口縁端部は「コ」字状に丸い。	ハケ	ハケ(3本/cm)	赤褐色 赤褐色	石・長(1~2) ○		
188	壺	口径 (12.4) 残高 3.3	口縁部は直立し端部は丸い。	ナデ	ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~2) ○		
189	鉢	口径 (15.2) 残高 7.0	水平気味に短く伸びる口縁部。口縁端部は「コ」字状。	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1~2) ○		
190	甕	底径 16 残高 2.2	丸みを持つ小さな底部。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~4)雲 ○	黒底	

表 13 SB101 出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
191	紡錘車	完形	蛇紋岩	3.7	3.6	1.35	23578	穿孔上面径0.8cm, 穿孔下面径0.5cm, コンパス支(60.4cm)	12
192	剥片		サヌカイト	3.4	2.5	0.8	8.589		
193	剥片		赤色珪質岩	2.35	1.9	0.6	4.170		

表 14 SD102 下層出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
194	甕	残高 2.5	軋實土器。	タタキ	ナデ	褐灰色 褐灰色	長(粒) ○		13
195	甕	残高 1.6	軋實土器。	タタキ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		13
196	甕	残高 2.5	軋實土器。	タタキ	ナデ	にぶい黄褐色 橙色	石・長(粒) ○		13
197	甕	口径 (16.0) 残高 4.2	口縁部中位に段を持ち、口縁端面は内傾する。	ハケ ナデ	ハケ ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
198	壺	口径 (12.6) 残高 4.5	直立する口縁部。口縁端部は丸い。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石(1) 密 ○		
199	高杯	底径 (10.0) 残高 2.3	脚部が折れ曲がり接地する。	ナデ	ナデ	明赤褐色 浅黄色	石・長(1) ○		

## 遺物観察表

表14 SD102下層出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外面	内面				
200	瓶	長さ (58) 厚み 33	瓶の把手。中央部が膨らむ。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○		
201	甕	口径 (104) 残高 68	短く伸びる口縁端部は丸い。	ハケ→ナデ	ナデ ミガキ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) 金 ○		
202	甕	残高 40	口縁端部は「コ」字状。	ハケ(7本/cm) →ナデ	ナデ ミガキ	暗灰黃色 暗灰黃色	石(1) 密 ○		
203	甕	残高 20	口縁端部に刻目。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
204	甕	底径 30 残高 19	丸みを持つ小さな平底。	ハケ(10本/cm)	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
205	壺	口径 (148) 残高 29	口縁端面に2条の凹線文を這らす。	ナデ	ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~2) ○		
206	壺	口径 (114) 残高 31	口縁端面に3条の凹線文を這らす。	ナデ	ナデ	黄橙色 黄橙色	石・長(1) ○		
207	壺	残高 56	胴部片。外側に線刻有り。	ミガキ	ナデ	にぶい橙色 灰色	石・長(1) ○		
208	壺	底径 (54) 残高 44	平底。	ハケ→ナデ	ハケ(6本/cm) →ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~2)赤 ○		
209	高坏	残高 70	基部に5条の沈線文を施す。	ナデ	しほり痕	橙色 橙色	石・長(1) ○		

表15 SD102下層出土遺物観察表(石製品)

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
210	石庖丁	欠損	緑色片岩	3.7	3.5	0.55	10465	
211	砥石	完形	砂岩	8.7	4.45	3.45	128352	粗~中粗

表16 SD102上層出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外面	内面				
212	坏蓋	口径 134 器高 43	扁平な天井部。口縁端部は内傾する面を持ち膨らむ。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~4) ○		13
213	高坏	残高 20	脚部に3方向の透かしの痕跡が見られる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
214	甕	残高 28	軌道土器。	タタキ	ナデ	棕色 にぶい棕色	石・長(1~2) ○		13
215	壺	口径 (121) 器高 126	直立する口縁部。口縁端部は尖り気味である。	ハケ(3~4本/cm)	ナデ	浅黄橙色 棕色	石・長(1~2) ○	黒斑	13
216	塊	口径 (98) 残高 34	直立する口縁部。口縁端部は丸い。	ナデ	ナデ	にぶい棕色 にぶい棕色	密 ○		
217	甕	口径 (186) 残高 27	複数外側する口縁部。	ナデ	ハケ(4本/cm) →ナデ	灰褐色 にぶい棕色	石・長(1) ○		

## 遺物観察表

表 16 SD102 上層出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 〔外面〕 〔内面〕	陶土燒 成	備考	図版
				外面	内面				
218	甕	残高 4.4	口縁端部に刺目を施す。	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	長・石(1) ○		
219	甕	残高 7.7	頭部に押圧された突帯文を巡らす。	ミガキ ナデ	ナデ	明赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○		
220	甕	底径 (6.0) 残高 3.8	僅かにくびれる上げ底。	ハケ→ナデ	ナデ	橙色 浅黄褐色	石・長(1~2) ○		
221	甕	底径 (7.6) 残高 4.5	僅かに上げ底。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
222	甕	底径 (8.0) 残高 2.9	平底。	ミガキ	ハケ(7本/cm) →ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
223	壺	残高 3.2	複合口縁壺。口縁拡張部に波状文を施す。	ハケ(5本/cm)	ハケ	灰褐色 灰褐色	石・長(1) ○		
224	壺	底径 (8.0) 残高 5.2	厚みのある平底。	ハケ→ナデ ミガキ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ○		
225	鉢	口径 (13.0) 残高 4.2	直立する口縁部。口縁端部は内傾する面を持つ。	ハケ(7本/cm)	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
226	鉢	底径 3.2 残高 2.1	小さな平底。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
227	高环	残高 6.8	径11cmの円孔。	ミガキ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○		
228	高环	残高 6.7	柱部。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
229	支脚	上部厚 5.0 下部厚 7.8 器高 5.5	上げ底で頂面が窪み傾斜する。底部に突起がある。	指頭痕 ナデ	指頭痕 ナデ	にぶい黄褐色 橙色	石・長(1) ○		
230	支脚	残高 7.6	角部の付け根部。	指頭痕 ナデ		にぶい黄褐色	長(1~2) ○		

表 17 SD102 層位不明出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 〔外面〕 〔内面〕	陶土燒 成	備考	図版
				外面	内面				
231	坏身	受部 (16.6) 残高 4.3	短く水平に伸びる受部の端部は尖り氣味である。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) 密 ○		
232	壺	口径 (12.3) 残高 2.0	製塙土器。口縁部の小片。	ナデ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1) ○		
233	甕	残高 3.7	口縁端面に刺目を施す。口縁部に粘土を貼付し厚みがある。土佐の土器か。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ○		
234	壺	口径 (10.0) 残高 5.2	ゆるやかに外反する口縁部。	ハケ(7本/cm) ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
235	壺	底径 (8.0) 残高 3.7	平底。	マメツ	マメツ	灰色 灰色	石・長(1~2)金 煤付着 黒斑		

## 遺物観察表

表 18 SD102 層位不明出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
236	砥石	欠損		10.0	4.6	1.9	107229		
237	敲石	完形		8.9	8.7	4.3	620		

表 19 SK101 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
238	壺	底径 4.2 器高 2.5	小さな平底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ○		

表 20 SK104 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
239	环身	口径 (13.4) 残高 1.8	たちあがりは短く直立し、端部は尖り 気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		

表 21 SK105 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
240	壺	残高 3.4	外面に木葉文。	ミガキ	指痕痕	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) ○		13

表 22 SK106 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
241	壺	口径 (20.4) 残高 2.6	頭部内面にナデによる縁を持つ。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		

表 23 SK106 出土遺物観察表（装身具）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
242	小玉	完存	ガラス	0.60	0.60	0.3	0.180		

表 24 SX101 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
243	壺	口径 (19.0) 残高 4.7	口縁端部は上下に拡張される、酸化気味に焼成。	回転ナデ	マメフ	灰黄色 灰黄色	密 △		

表 25 SD101 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
244	壺	底径 4.4 器高 5.5	僅かに丸みを持つ小さな底部。	ハケ(5~6本/cm) ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○	黒斑	
245	壺	底径 (4.0) 器高 3.0	平底。	ハケ(7~8本/cm) ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 黒褐色	石・長(1~2)金、青 ○	黒斑	

## 遺物観察表

表 25 SD101 出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼	備考	図版
				外面	内面				
246	高环	つまみ紐 2.6 残高 1.6	蓋部。つまみ中央部が僅かに凸状。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
247	坏蓋	口径 (15.6) 残高 3.4	口縁部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 灰色	石・長(1~2) ○		
248	壺	口径 (14.2) 残高 4.2	口縁端部は上下に肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
249	坏	底径 (7.2) 残高 2.5	高台は「ハ」の字状に開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
250	坏	底径 (6.7) 残高 2.3	円盤高台。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 金 ○		
251	坏	底径 (6.6) 残高 2.4	円盤高台。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○		
252	土鍤	長さ 幅 孔径 4.4 1.4 0.4	管状土鍤。重さ3.823g。	ナデ		黒褐色 褐灰色	石・長(1) ○		13

表 26 SD101 出土遺物観察表（装身具）

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)		
253	白玉	完存	滑石	0.72	0.45	0.20	0.263	
								13

表 27 SD101 出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
254	石鑿	先端部欠	サスカイト	2.65	2.15	0.5	3.945	
255	剥片		サヌカイト	2.5	2.25	0.6	2.857	

表 28 SP出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼	備考	図版
				外面	内面				
256	甕	底径 (7.6) 残高 3.9	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 暗灰色	石・長(1~2) ○	SP108 出土	
257	壺	底径 (13.0) 残高 5.3	厚みのある平底。	ミガキ ナデ	マメツ	にぶい赤褐色 明褐色	石・長(1~2) ○	SP113 出土	
258	高环	残高 1.3	口縁部片。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1) ○	SP120 出土	
259	甕	底径 (3.2) 器高 2.4	平底。	ハケ(6本/cm) ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 褐灰色	石・長(1) ○	SP120 出土	
260	壺	口径 (13.6) 残高 3.1	口縁部片。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1) ○	SP120 出土	
261	高环	底径 (11.8) 残高 3.1	脣端部は拡張され端面に凹線文1条、 瓶部に凹線文3条を施す。矢羽根模様 の一部が残る。	ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1) 金 ○	SP120 出土	
262	高环	残高 4.1	3方向の透かしを施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	蜜 ○	SP121 出土	

## 遺物観察表

表 29 SP120 出土遺物観察表(石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
263	剝片		サスカイト	25	205	0.5	2960		

表 30 包含層出土遺物観察表(土製品)

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 内面	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
264	甕	口径(124) 残高 35	口縁端部は肥厚され垂む。	ハケ(5本/cm)	ハケ(5本/cm)	にぶい橙色 暗灰色	石・長(1~2) ○		
265	甕	口径(260) 残高 50	頭部に押圧された突帯文を1条巡らし、口縁端部に刻目を施す。	ミガキ ヨコナデ	ヨコナデ ハケ(8~9本/cm)	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ○		
266	甕	底径 26 残高 31	小さな平底。	ハケ(6~7本/cm) →ナデ	ハケ(6~7本/cm)	橙色 黒褐色	石・長(1~2) ○		
267	甕	底径 47 残高 56	平底。	ハケ(10本/cm)	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
268	壺	口径(100) 残高 83	複合口縁型。扭張部は内傾し、端部 は先細りし丸い。	ハケ(4本~10本/cm) →ナデ	ハケ(10本/cm) →ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) 赤 ○		
269	壺	口径(18.0) 残高 37	口縁端部は上下に拉張し両端部に刻 目を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		
270	壺	頭幅(68) 残高 34	頭部に10条の紺綴文が巡る。	ミガキ	ハケ(10本/cm) ナデ	黒色 黒褐色	石・長(1) 密 ○		
271	壺	残高 80	胴部外面に柳状工具による2~3本の 半円状の文様。	ハケ(4本/cm)	ハケ(6~7本/cm)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	13	
272	甕	底部(100) 残高 31	平底。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) ○		
273	高壺	口径(232) 残高 76	口縁部外面に5条の凹綴文、内傾する 口縁部端面に1条の凹綴文を施す。	ミガキ	ハケ ナデ ミガキ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~2) 金 ○	黒斑	
274	高壺	残高 54	基部。	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 黒褐色	石・長(1~3) ○		
275	甕	口径(166) 残高 57	口縁部中位に棱を持つ。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~5) ○		
276	瓶	残高 59	扁平な舌状の把手。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 褐灰色	石・長(1~2) ○		
277	环身	口径(111) 器高 45	たちあがり端部は内傾する面を持ち 垂む。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
278	环身	受部(129) 残高 26	受部は短く水平に伸び、端部は尖り気 味に丸い。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 灰色	石・長(1) ○		

表 31 包含層出土遺物観察表(装身具)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
279	小玉	完存	ガラス	0.53	0.43	0.2	0.096	暗青灰色	

表32 出土地点不明遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外) (内)	胎 土 焼	備考	図版
				外面	内面				
280	高坏	残高 4.6	基部、円孔が2ヶ所に残る。	ミガキ	ハケ(9本/cm) →ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1) ○		
281	瓶	残高 4.3	舌状の把手部。断面隅丸長方形状。	ナデ	マメツ	浅黄褐色 浅黄褐色	石・長(1~2) ○		
282	瓶	残高 4.6	把手部。断面横円形状。	ハケ(11~12本/cm) →ナデ	ケズリ →ハケ(9~10本/cm)	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~3) ○		
283	瓶	残高 3.7	把手部。断面横円形状。	ナデ		にぶい褐色	石・長(1~3) ○		
284	瓶	残高 5.8	把手部。断面横円形状。	ナデ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
285	高坏	つまみ部 29 残高 15	蓋部、中央部が瘤むつまみ部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
286	坏蓋	つまみ部 3.0 残高 1.7	算盤五状のつまみ部。	自然軸	ナデ	灰オリーブ色 灰白色	白色粒 密 ○		
287	坏蓋	つまみ部 2.1 残高 2.2	乳頭状のつまみ部。	回転ナデ	回転ナデ ナデ	灰白色 灰白色	白色粒 密 ○		
288	坏身	口径 (11.2) 残高 4.3	たちあがりは直立し、端面は内傾し瘤む。受部は短く水平に伸び、端部は尖り氣味に丸い。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	白色粒 密 ○		
289	高坏	口径 (16.1) 残高 3.9	段を持ち外反する口縁部。段下部に2本の瘤む根間に波状文7~8条盛らす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
290	塊	口径 器高 (9.0) 27	平底。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	黑色粒 密 ○		

写真図版

## 写真図版データ

1. 造構は、主な状況については、 $4 \times 5$  判や  $6 \times 7$  判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判フィルムカメラ・デジタルカメラで補足している。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カ メ ラ	トヨフィールド 45A	レ ン ズ	スーパーアンギュロン	90mm他
	アサヒペンタックス 67		ペンタックス 67	55mm他
	ニコンニュー FM 2		ズームニッコール	28 ~ 85mm他
フ イ ル ム	白 黒 アクロス			
デジタルカメラ	Nikon D90 AF-S DX18 ~ 55mm			

2. 造物は、デジタルカメラで撮影した。

使用機材：

デジタルカメラ	Nikon D610	マイクロニッコール 105mm
	Light Room	にて現像
ス ト ロ ボ	コメット /CA32・CB2400	

スタンド等 トヨ無影撮影台・エイトスタンド 101

3. 製 版：写真図版 175 線

印 刷：オフセット印刷  
用 紙：マットコート 110kg

【参考】『埋文写真研究』vol.1 ~ 20・『報告書制作ガイド』『文化財写真研究』vol.1 ~ 6

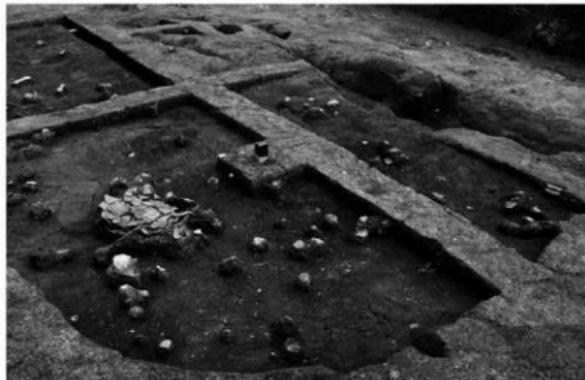
[大西 朋子]



1. I区第2面  
遺構検出状況①  
(南西より)



2. I区第2面  
遺構検出状況②  
(西より)



1. SB101  
遺物出土状況  
(北西より)



2. SB101  
土師器壺出土状況  
(北西より)



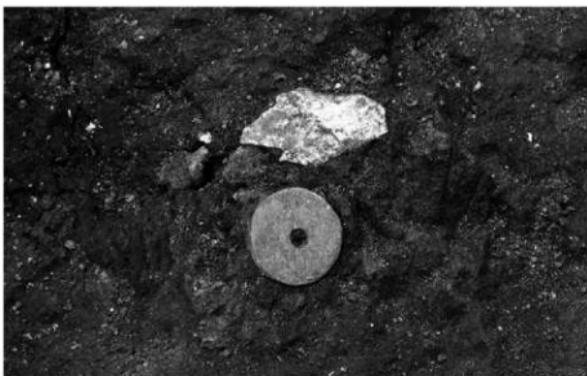
3. SB101  
小型壺出土状況  
(北より)

1. SB101  
紡錘車出土状況①  
(東より)

図版  
3



2. SB101  
紡錘車出土状況②  
(東より)



3. SB101  
打ち欠かれた高環  
出土状況  
(南西より)





1. SB101  
完掘状況  
(西より)



2. SB102  
遺物出土状況  
(西より)



3. SB102  
炉内遺物出土状況  
(東より)



1. SB102  
完掘状況①  
(西より)



2. SB102  
完掘状況②  
(北西より)



3. SB103  
検出状況  
(南東より)



1. SB103  
完掘状況、  
遺物出土状況  
(南東より)



2. SB103  
台石出土状況  
(南より)



3. SD102  
遺物出土状況①  
(北西より)



1. SD102  
遺物出土状況②  
(東より)



2. I 区完掘状況  
(西より)



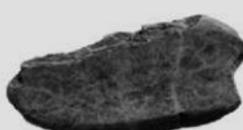
3. SB201  
遺物出土状況  
(東より)



1. SB102 出土遺物①



1. SB102 出土遺物②



132



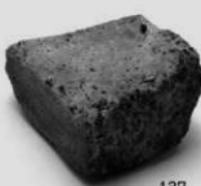
133



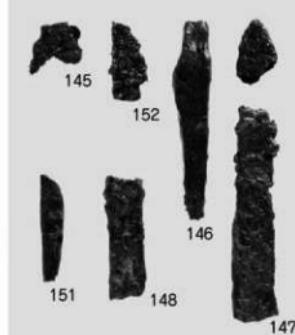
142



135



137



145

152

146

151

148

147

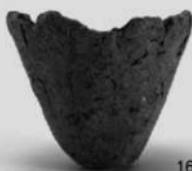
1. SB102 出土遺物③



157



159

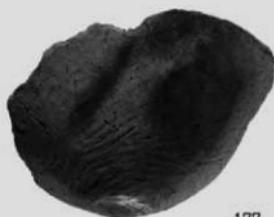


167



171

1. SB103 出土遺物



177



184



191

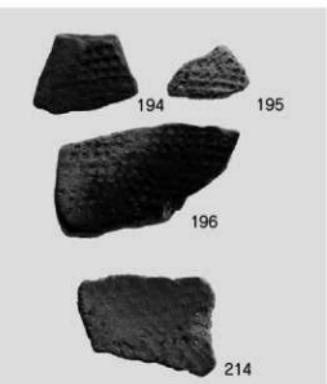


180



183

1. 出土遺物 (SB201 : 177、SB101 : 180・183・184 : 191)



1. 出土遺物 (SD102 : 194 ~ 196 · 212 · 214 · 215、SK105 : 240、SD101 : 252 · 253、包含層 : 271)



## 報告書抄録

ふりがな	たるみしたんじいせき
書名	樽味四反地遺跡 23次調査
副書名	
卷次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第186集
編著者名	高尾 和長・大西 朋子
編集機関	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6 TEL089-923-6363
発行年月日	西暦2017(平成29)年3月20日

松山市文化財調査報告書 第186集

**樽味四反地遺跡  
23次調査**

---

---

平成29年3月20日 発行

編 集 公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團  
発 行 埋蔵文化財センター  
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6  
TEL (089) 923-6363

松山市教育委員会  
〒790-0003 松山市三番町六丁目6番地1  
TEL (089) 948-6605

印刷七キ株式会社  
〒790-8686 松山市湊町七丁目7番地1  
TEL (089) 945-0111

---

---

